

---

---

神奈川県立近代美術館

---

年2009報

---

ANNUAL REPORT

---

---



## あいさつ

年報2009年度版をお届けいたします。

年度ごとに刊行するこの年報は、そのたびに巻頭で述べさせていただいているように、私ども神奈川県立近代美術館が毎年どのような活動を行っているか、その概略を報告するものです。基本的な方向は、毎年変わるものではありませんが、実際に行われる事業については、年ごとにそれまでの経験を活かして工夫を重ねています。毎年繰り返して述べることですが、美術館の活動は、国内に限らず全世界的に、美術館の存在を支える社会に対して広く門戸を開くことをますます要請されるようになっていきます。さまざまな動機から美術館を訪れる多様な人々の、美術に関する多様な求めに応える美術館のあり方が、国を問わず、地域を問わず探られています。

私どもの美術館も、神奈川県という地域の特性を念頭に置きながら、同時に視野を広くもちつつ、誰もが気軽に訪れることができ、しかもさまざまな楽しみ方ができるあり方をつねに模索しながら、少しずつ活動の幅を広げてまいりました。神奈川県の財政状況は、年ごとに苦しさを加え、分厚い雲がかかったように明るい兆しが見えてきませんが、そんな苦しみのなか私どももまた、美術館活動を充実させていくのに苦心しております。しかし、美術館を場に展開される活動は、人々の生活を充実させる文化領域のなかでなくてはならないものです。私どもは、今何が必要かということを中心に考えながら、質の高い美術領域の活動を探り、可能な限り県民をはじめ多くの方々に豊かな時間を提供し、美術の魅力を通して快い刺激を与えていく努力を払っています。

困難な状況に対処する方策の一つには創意と工夫が大事であると考え、展覧会についても観覧者数の増加もさることながら、広範な視点で社会や時代に必要な内容をもつものを目指し、普及活動の領域でも、子供たち、青年層、成人の方々と、広く目配りをしていろいろな方向から美術に、そして美術館に親しみ、参加することで何かを得ることができるよう心がけています。また、コレクション作り、資料収集についても、美術作品、資料を多くの方々に役立つものとし、将来の人々に残していくことを使命と考え、美術作家、収集家を始めとするさまざまな方のご支援のもとに充実を努めています。さらには、そうした活動を支えるその水準を高め、つねに良質のものを提供するために美術館職員の調査研究を始めとする諸能力の研鑽についても心がけております。

2009年度の展覧会事業では、「画家のまなざし、レンズの眼」、「白樺派の愛した美術」で日本の近代美術を見直し、「フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展」でフランスでもまだ研究が端緒に着いたばかりのリヴィエールを逸早く取り上げ、鎌倉館では「建築家 坂倉準三展」を開いて鎌倉館の設計者と建物それ自体を顕彰いたしました。また、長澤英俊、松谷武判、内藤礼と言った現存の作家の個展を開催して同時代の美術を見る視点も忘れていません。そのほかの企画を合わせ、本年も総計14本の展覧会を開催しています。また、さまざまな普及活動を始め、この年報を通して、美術館がどのような活動をしているのかの実際と美術館の一年を知っていただきたいと思います。そして、できるだけ多くの方々にお知らせするために、美術館のホームページでも、この年報の内容をご覧いただけるようにしました。幾多の視点からのご意見、批評、激励は、美術館活動を一層有益なものとするに欠かせないと考えております。

2011年2月

神奈川県立近代美術館館長 山梨俊夫

# 目次

あいさつ	3
展覧会活動	
葉山館	5
鎌倉館	10
鎌倉別館	15
会期・観覧者数一覧	19
教育普及活動	
受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)	20
研修等受入プログラム(研修・実習・団体観覧等)	22
美術館活用推進委員会	22
美術図書室	22
美術館紹介・広報掲載実績	23
刊行物(展覧会図録を除く)	24
2009年度の教育普及活動 [太田泰人]	26
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈状況	28
寄託状況	28
新収蔵作品一覧	28
館外貸出作品一覧	40
修復報告	44
修復作品一覧	46
調査研究活動	
研究・調査報告	47
玉村方久斗のグラフィック的表現の意味 [橋秀文]	47
チェコスロヴァキアのアール・デコ書籍装丁 — プラハ装飾芸術美術館所蔵作品の調査を経て [榎山昌夫]	49
調査研究・執筆等の発表	51
外部資金の活用・共同研究	51
講師派遣・外部委員等就任	51
運営・管理報告	
概況	53
収入・支出の状況	54
組織	54
職員一覧	55

## 展覧会活動

637

生誕100年 荘司福展 花、大地、山—自然を見つめて

SHOJI Fuku: Eyes in Nature

花や石や山といった自然を見つめて、現代日本画に深遠で玄妙な世界を確立し、現在、ますます評価が高まっている荘司福(1910-2002)の世界を、代表作約90点で回顧する。

主催：神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社

会期：2009年4月11日(土)～6月14日(日)

休館日：月曜日(ただし5月4日は開館)、4月30日(木)、5月7日(木)

開催日数：55日

出品総点数：96点(展示替有)

総観覧者数：8,529人

担当学芸員：橋秀文、平井鉄寛

### 関連企画

1) 講演会 5月17日 「母、荘司福のこと」荘司準

2) ギャラリートーク 4月18日、5月16日、30日

### 関連記事

#### ▼展評・解説など：

橋秀文「生誕100年 荘司福展 旅と思索の画家」『神奈川新聞』2009年4月11日、4面

橋秀文「時空を模索する画家荘司福」『新美術新聞』2009年4月11日、美術年鑑社、2009年4月、p.1

尹貴淑「代表作90点で回顧 誕生100年記念 『荘司福』展」『神奈川新聞』2009年4月12日、25面

尹貴淑「60年に及ぶ画業回顧 荘司福展 県立近代美術館葉山」『神奈川新聞』2009年5月4日、18面

橋秀文「PREVIEW」『美術の窓』2009年6月号、生活の友社、2009年6月、p.191

▼展覧会紹介：2紙/10誌(15回)

▼情報掲載：5紙/12誌(39回)

### カタログ

24.9×20.7cm、120ページ、販売価格2,400円

多色97図、単色挿図10図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

翻訳：小川紀久子

デザイン：今井千恵子(n.b graphics)

制作：コギト

謝辞、あいさつ、目次

時を透かして見えるものを描く—荘司福の絵画(山梨俊夫)

旅と思索の画家—荘司福(橋秀文)

I. 戦後のスタート、そして生と死の世界

II. 自然との融合を図って

III. 下図・素描

年譜、主要参考文献(編：橋秀文、平井鉄寛)

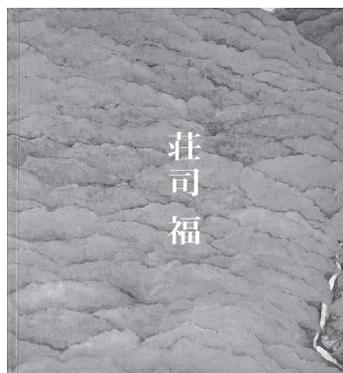
SHOJI Fuku - The Artist and Her Works [Summary](Hashi Hidebumi)

Abridged Chronology

作品リスト



ポスター



カタログ表紙

### 担当学芸員コメント

1996年、玄妙な作風で知られる日本画家荘司福から26点の作品が寄贈されたことを記念して当館別館で「荘司福展」が開催された。その後、2002年に作者は亡くなり、生誕100年を記念して開催したのがこの展覧会である。当館と同じくらいに荘司福の作品を収蔵している宮城県美術館の協力を得て、荘司福の主要な作品をほとんど網羅でき、今までで最高の、おそらく空前絶後の荘司福展となった。(橋秀文)

638

画家の眼差し、レンズの眼 近代日本の写真と絵画  
Photographs and Paintings in Modern Japanese Art

19世紀に発明された写真術は視覚文化に幅広い影響を与えてきた。本展は、その日本における様相をとりあげ、油絵、日本画、版画などさまざまなメディアと写真とを比較検討しながら、幕末から昭和初期までの近代絵画におけるリアリズムの問題や日本近代写真の成立と展開などについて再考する。

主催：神奈川県立近代美術館、日本経済新聞社  
会期：2009年6月27日(土)～8月23日(日)  
休館日：月曜日(ただし7月20日は開館)、7月21日(火)  
開催日数：50日  
出品総点数：222点(展示替有)  
総観覧者数：6,906人  
担当学芸員：長門佐季、橋秀文

関連企画

- 1) 講演会 7月19日 「写真の自立—美術としての写真」岡塚章子
- 2) ギャラリートーク 7月4日、8月8日

関連記事

▼展評・解説など:

窪田直子「写真と絵画—密やかな関係」『日経新聞』2009年8月11日夕刊、16面  
前田恭二「『画家の眼差し、レンズの眼』 高めあう絵画と写真 表現 構成 触発」『読売新聞』2009年8月13日、30面  
平倉圭「松三郎の才気」『美術手帖』2009年9月号、美術出版社、2009年9月、pp.178-179  
飯沢耕太郎「展評'09」『アサヒカメラ』2009年9月号、朝日新聞出版、2009年9月、pp.182-183  
「Stardust」『芸術新潮』2009年10月号、新潮社、2009年10月、pp.134-135  
倉石信乃・ホンマタカシ・福田和也「今日の写真2009」『アサヒカメラ』2009年10月号、朝日新聞出版、2009年10月、pp.216-217



ポスター

飯沢耕太郎「いま注目すべき写真の仕事2010・注目の写真展」『アサヒカメラ』2010年1月号、朝日新聞出版、2010年1月、pp.160-161  
▼展覧会紹介:1紙/12誌(14回)  
▼情報掲載:5紙/10誌(41回)

カタログ

28.7×23.3cm、192ページ、販売価格2,000円  
多色229図、多色挿図6図、単色挿図8図  
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
執筆：山梨俊夫、橋秀文、長門佐季  
翻訳：小川紀久子  
制作・デザイン：美術出版社

謝辞、ごあいさつ、Introduction、目次

絵画と写真を結ぶ回路—接近と離反(山梨俊夫)

I章 「写す」ということ—油画と写真の草創期(章解説：山梨俊夫)

II章 写真のような絵、絵のような写真—「みづゑ(水彩画)」とビクトリアリズム(章解説：橋秀文)

III章 画家の眼、レンズの眼(章解説：長門佐季)

III-1 構図と構成

III-2 光と影

作家略歴、美術・写真年表(編：長門佐季、橋秀文)、主要参考文献(編：橋秀文)、作品リスト



カタログ表紙

担当学芸員コメント

幕末明治から国画会に写真部が創設された昭和14(1939)年までをひとつの区切りとして、鳥霞谷、高橋由一、浅井忠から大下藤次郎、福原信三、野島康三、岸田劉生、谷中安規まで、写真と絵画の関係を写真と絵画(油彩、水彩、版画)で構成した。これまで平行線をたどってきた写真史と絵画史をクロスオーバーさせる新しい視点に立った画期的な内容であり、重要文化財作品など名品の数々を展示したが、観覧者数はいまひとつ伸び悩んだ。しかしながら、将来に向け、写真と絵画の今日的な問題を提起する企画であった。(長門佐季)

639

フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展 オルセー美術館 フランス国立図書館 所蔵

Maître français de l'ukiyo-e Henri Rivière

アンリ・リヴィエール(1864-1951)は19世紀末から20世紀にかけてフランスで活躍した版画家、画家。ジャポニズムの流行の中、浮世絵から大きな刺激を受けた多色摺りの木版画、リトグラフをはじめとして、その作品は素朴で透明な独自の世界を形成した。フランス国家に新たに寄贈された作品と資料をバリのオルセー美術館、国立図書館と日仏共同研究した、世界初のリヴィエール回顧展。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞、NHKサービスセンター  
学術協力：フランス国立図書館、オルセー美術館、県立ブルターニュ博物館

後援：在日フランス大使館

協力：日本航空、ポーラ美術振興財団

監修：ヴァレリー・シュウール=エルメル(フランス国立図書館)、  
藤村忠範(山口県立萩美術館・浦上記念館)

企画コーディネーター：飯山雅英(事務所アアイ)

「秋の神奈川再発見キャンペーン」参加イベント

会期：2009年9月5日(土)～10月12日(月・祝)

休館日：月曜日(ただし9月21日、10月12日は開館)、9月24日(木)

開催日数：33日

出品総点数：208点

総観覧者数：10,991人

担当学芸員：太田泰人、李美那、朝木由香

巡回：石川県立美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館

#### 関連企画

- 1) 講演会 9月26日 「バリの浮世絵師 アンリ・リヴィエール」馬淵明子
- 2) ギャラリートーク 9月5日、10月3日

#### 関連記事

##### ▼展評・解説など:

窪田直子「写真と絵画 密やかな関係 神奈川県立近代美術館葉山」『日経新聞』2009年8月11日夕刊、16面

加藤行平「私のジャポニズムを 葉山 リヴィエール展」『東京新聞』2009年9月4日、22面

太田泰人「フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展 上『星との歩み』」『東京新聞』2009年9月7日夕刊、8面

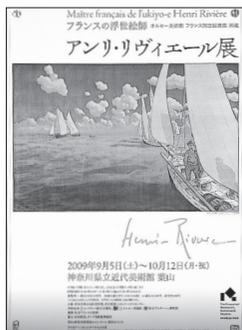
朝木由香「フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展 中『エッフェル塔三十六景』」『東京新聞』2009年9月8日夕刊、8面

李美那「フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展 下『自然の様相』」『東京新聞』2009年9月9日夕刊、8面

小川敦生「アンリ・リヴィエール展 北斎への私淑くつきり」『日経新聞』2009年9月23日、28面

▼展覧会紹介：2紙/19誌(21回)

▼情報掲載：6紙/16誌(49回)



ポスター

#### 担当学芸員コメント

《エッフェル塔三十六景》ばかりが名を馳せている感があるリヴィエールだが、今回はそれ以外の二つの点もクローズアップした。一つは彼の出発点にあるバリのカフェ「シャ・ノワール」での影絵劇で、スクリーン後ろに実際の亜鉛板影絵人形を配し、影絵劇の楽譜本から取った数色が数秒ごとに変化する照明を施して、当時の上演を想像できる装置として展示したこと。版画を立体的展示にし、出品作と館外に広がる海の夕景とが呼応して、観覧者から大変好評を得た。もう一つは浮世絵版画以外の日本との関係の掘り起こして、ほぼ同時代に同じ問題意識で木版画に取り組んだ日本の作品を42点加えている。準備の課程で、リヴィエールが編集・製作した豪華本『極東美術の陶磁』が富本憲吉の模様集編集に造本上の示唆を与えた可能性を探り当てたのは、創作者同士の時空を超えた響きあいとして興味深いものだった。(李美那)

#### カタログ

29.7×22.8cm、220ページ、販売価格2,200円

多色214図、単色27図、多色挿図5図、単色挿図39図、

編集：山口県立萩美術館・浦上記念館、神奈川県立近代美術館、NHKサービスセンター

執筆：ヴァレリー・シュウール=エルメル(フランス国立図書館)、フランソワーズ・エルブラン(オルセー美術館)、カロリース・マチュー(オルセー美術館)、藤村忠範(山口県立萩美術館・浦上記念館)、李美那(神奈川県立近代美術館)、飯山雅英(事務所アアイ)

書誌：モニク・ムレーヌ(フランス国立図書館)、李美那

翻訳：太田泰人(神奈川県立近代美術館)、朝木由香(神奈川県立近代美術館)、飯山雅英、ガブリエル・デュフル=橋原、ジャック・ジョリ

デザイン：竹迫文明

印刷：瞬報社写真印刷株式会社

発行：NHKサービスセンター

ごあいさつ、メッセージ、謝辞、目次

アンリ・リヴィエール 画家=版画家・絵師(ヴァレリー・シュウール=エルメル) —ジャポニズムの画家が残した浮世絵— アンリ・リヴィエール浮世絵コレクション(藤村忠範)

アンリ・リヴィエールの写真：デッサン、版画の副次的手段として(フランソワーズ・エルブラン)

アンリ・リヴィエールと近代のバリ(カロリース・マチュー)

アンリ・リヴィエールの師—林忠正・杉浦非水・富本憲吉(李美那)

アンリ・リヴィエールを通して見た日本と西洋(飯山雅英)

第一部 カフェ「シャ・ノワール」初期作品と影絵劇

第二部 ブルターニュ 自然の風景

第三部 世紀末バリ 近代化する都市の風景

第四部 リヴィエールと日本

第五部 近代日本絵画とリヴィエール

Henri Rivière, peintre-graveur et imagier (Valérie Sueur-Hermel)

Les estampes léguées par un peintre du japonisme. La collection de l'ukiyo-e d'Henri Rivière (FUJIMURA Tadanori)

La photographie chez Henri Rivière : un auxiliaire du dessin et de la gravure (Françoise Heilbrun)

Henri Rivière et le Paris moderne (Caroline Mathieu)

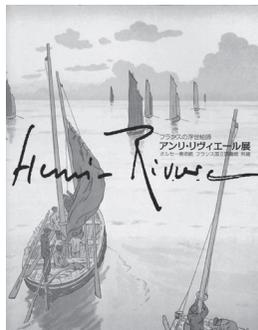
Henri Rivière et son écho: HAYASHI Tadamasu, SUGIURA Hisui, TOMIMOTO Kenkichi (LEE Mina)

Le Japon et l'Occident vus à travers Henri Rivière (IYAMA Masahide)

出品作品リスト、略年譜

Bibliographie (rédigée par Monique Mouléne)

リヴィエールの主要日本語文献(編：李美那)



カタログ表紙

640

『白樺』誕生100年 白樺派の愛した美術  
 “Shirakaba”-Pilots of Art in Modern Japan

1910年に創刊された『白樺』の同人たち「白樺派」は、誌上で積極的に美術評論を展開し、セザンヌ、ルノワール、マティス、レンブラント、ロダンといった西洋美術の巨匠を日本に紹介、また同人の画家や西洋美術を紹介する展覧会を20回近く開催した。理想の美術館「白樺美術館」建設を夢見た白樺派が愛した美術に焦点をあて、日本近代美術の転換点になった彼らのさまざまな活動を紹介する。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会  
 協賛：ダイワボウ情報システム、ライオン、清水建設、大日本印刷  
 協力：調布市武者小路実篤記念館、県立神奈川近代文学館  
 企画協力：ティー・シー・ディー  
 会期：2009年11月3日(火・祝)～2009年12月20日(日)  
 休館日：月曜日(ただし11月23日は開館)、11月4日(水)、24日(火)  
 開催日数：41日  
 出品総点数：196点  
 総観覧者数：7,532人  
 担当学芸員：榎山昌夫、奥野美香  
 巡回：京都文化博物館、宇都宮美術館、財団法人ひろしま美術館

関連企画

- 1) 開催記念講演会 11月3日 『「白樺」とその時代』山梨俊夫
- 2) 県立機関活用講座 連続講演会(全5回)  
 第1回 11月7日：『「白樺」の挿絵—マネ、セザンヌ、ルノワール、ヴァロトシー—』  
 島田紀夫  
 第2回 11月28日：『梅原龍三郎と白樺』嶋田華子  
 第3回 12月5日：『「或る女」と「暗夜行路」—「白樺」・非「白樺」紅野敏郎  
 第4回 12月12日：『資料に見る「白樺派の愛した美術」』福島さとみ  
 第5回 12月19日：『フォーゲラーからロダンへ』山田俊幸
- 3) ギャラリートーク 11月15日、29日

関連記事

- ▼展評・解説など：  
 郷原信之「白樺で出会った文芸と美術の才能 創刊100年控え展覧会」『日経新聞』2009年10月5日夕刊、16面  
 榎山昌夫「白樺派の愛した美術」④ オーギュスト・ロダン『接吻』『読売新聞』2009年11月11日、34面  
 榎山昌夫「白樺派の愛した美術」⑤ フィンセント・ファン・ゴッホ『向日葵(複製)』『読売新聞』2009年11月12日、30面  
 榎山昌夫「白樺派の愛した美術」⑥ 岸田劉生『湯呑と茶碗と林檎三つ』『読売新聞』2009年11月14日、32面

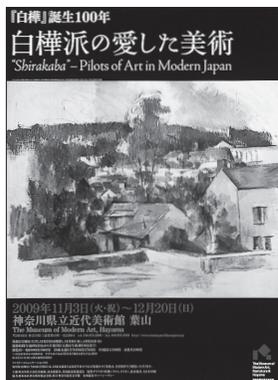
- ▼展覧会紹介：3紙/7誌(11回)
- ▼情報掲載：5紙/16誌(55回)

カタログ

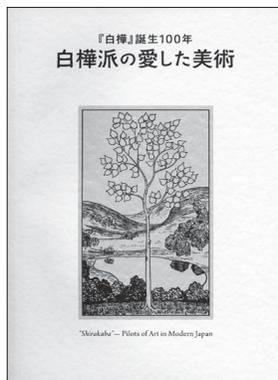
26.5×19.2cm、236ページ、販売価格2,100円  
 多色390図、単色8図、多色挿図32図、単色挿図51図  
 編集：京都文化博物館(長舟洋司)、宇都宮美術館(濱崎礼二)、財団法人ひろしま美術館(古谷可由)、神奈川県立近代美術館(榎山昌夫、山梨俊夫)、読売新聞大阪本社文化事業部(近藤由利子、鈴木章太郎)  
 企画協力・図録執筆：嶋田華子(東京大学)  
 翻訳：スタン・アンダソン、河野晴子、吉田暁子  
 デザイン：株式会社エヌ・シー・ビー(高岡健太郎)  
 印刷：日本写真印刷株式会社  
 発行：読売新聞大阪本社

ごあいさつ、謝辞、目次

『白樺』の熱と波(山梨俊夫)  
 Introduction  
 第I章 西洋美術への熱狂  
 第II章 白樺派の画家たち  
 第III章 理想と友情を求めて  
 西洋美術受容における「白樺」の果たした役割(古谷可由)  
 『白樺』派の画家たち—「自己の為の芸術」とその「道程」—(濱崎礼二)  
 『白樺』と京都—黒田重太郎、須田国太郎、国画創作協会をめぐって—(長舟洋司)  
 白樺主催展覧会新資料の考察—「白樺主催第五回美術展覧会」場内の写真—(榎山昌夫)  
 日記に見る『白樺』同人の交遊と創作の背景—岸田劉生と木下利支の牡丹を巡って—(嶋田華子)  
 作家解説、『白樺』関連年表(作：嶋田華子、山梨俊夫)、主要参考文献  
 『白樺』掲載図版および美術関連記事(編・作：古谷可由、水木祥子)  
 『白樺』主催展覧会目録(編・作：長舟洋司)  
 作品リスト



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

雑誌『白樺』が1910(明治43)年に創刊されてから100年を記念して、同誌とその同人たちの活動が日本の近代美術に与えた影響を検証する展覧会であった。『白樺』全巻を始め、ロダンの彫刻など、同人が招来したヨーロッパの美術作品や同誌に集った美術家たちの作品のみならず、同人たちの活動資料も合わせて展示することによって、その複合的な運動を多層的に紹介することができたと考える。(榎山昌夫)

641

長澤英俊展—オーロラの向かう所  
NAGASAWA-Dove tende aurora

大学卒業後に大陸を横断してヨーロッパに行き、以後ミラノを拠点に大理石や木、金属などを素材とする神話的テーマをもつ彫刻によって、身体や行為と空間との関連性を重視した作品世界を探究してきた長澤英俊(1940-)。1993年以来となる国内待望の個展で、近作を中心にその造形の軌跡をたどる。

主催: 神奈川県立近代美術館、長澤英俊展実行委員会  
企画協力: 空間造形コンサルタント  
会期: 2010年1月9日(土)~3月22日(月)  
休館日: 月曜日(ただし1月11日、3月22日は開館)、1月12日(火)、  
2月12日(金)  
開催日数: 62日  
出品総点数: 19点  
総観覧者数: 5,472人  
担当学芸員: 是枝開、三本松倫代  
巡回: 川崎市立美術館・埼玉県立近代美術館、国立国際美術館、  
長崎県美術館

## 関連企画

- 1) 長澤英俊によるアーティスト・トーク 1月10日
- 2) ギャラリートーク 1月24日、2月21日、3月14日

## 関連記事

- ▼展評・解説など:  
村田真「相次ぐ70年代ベテラン作家の回顧展『長澤英俊展』等」『北海道新聞』  
2010年2月15日、11面  
秋元康・甘糟りり子: 対談「秋元康流アートのすすめ」『美術手帖』2010年4月号、  
美術出版社、2010年4月、pp.122-125  
酒井忠康「遠のいていく風景 長澤英俊の場合」『美術ペン』130号、北海道美術  
ペンクラブ、2010年4月、p.6  
▼展覧会紹介: 1紙/5誌(9回)  
▼情報掲載: 5紙/19誌(66回)

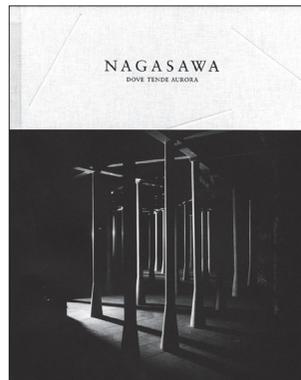
## カタログ

29.2×23.3cm、196ページ、販売価格2,300円  
多色20図、多色挿図301図、単色挿図106図  
編集: 川崎市立美術館(濱田千里)、埼玉県立近代美術館(前山裕司、平野到、  
渋谷拓)、国立国際美術館(中井康之)、神奈川県立近代美術館(是枝開、三本  
松倫代)、長崎県美術館(野中明)、空間造形コンサルタント(土田久子)  
デザイン・制作: 垣本正哉、笠毛和人、河野素子(美術出版社)  
印刷: 大日本印刷  
発行: 長澤英俊展実行委員会、空間造形コンサルタント

ごあいさつ、謝辞、目次  
アイデアとポエジー(建昌哲)  
長澤秀俊: 見えない力の空間(ブルーノ・コラ)  
長澤秀俊: 見えない庭への旅—答えることの使命、そして彼の芸術のエコー(パ  
ブロ・J・リコ)  
カタログ  
長澤英俊インタビュー(聞き手: 是枝開)  
宇宙の琴線の響き—インタビューを終えて(是枝開)  
長澤英俊作品目録 1997-2009(編: 濱田千里、平野到)  
《オフィールの金》(中井康之)  
繰り返されるモチーフの変遷(濱田千里)  
重力の真理に触れるために(平野到)  
年譜(編: 中井康之)、参考文献(編: 三本松倫代)、出品リスト  
Ideas and Poetry (Akira Tatehata)  
Hidetoshi Nagasawa: the Space of Invisible Energies (Bruno Corà)  
A Walk through the Invisible Gardens of Hidetoshi Nagasawa—The Task  
of Responding and Other Echoes of His Art (Pablo J. Rico)  
Reverberation of the Harp Strings of the Universe: After the Interview  
(Hiraku Kore-eda)  
Oro di Ofir (Yasuyuki Nakai)  
Variations of Repeated Motifs in the Work of Hidetoshi Nagasawa (Chisato  
Hamada)  
Touching the Truth of Gravity (Itaru Hirano)



ポスター



カタログ表紙

## 担当学芸員コメント

イタリアを拠点に活躍する長澤英俊の大規模な国内巡回展。近年制作された大型の彫刻を中心に展示。作家による現場制作のための準備や仮設壁の設置計画などに苦労したが、作家との綿密な打ち合わせのもと結果的に緊張感のあるダイナミックな展示空間が実現した。作家に制作についての考えなどを訊ねてインタビューとして図録に収録。そこで発せられた作家の言葉には、制作の現場で積み重ねられてきた経験にもとづくスケールの大きい造形哲学があり、作品の裏側にある発想や思考の独自性など、じつに興味深い要素が多々ちりばめられていた。(是枝開)

642

春のコレクション・版画展 シャガールとルドン

Spring Exhibition: Prints by Marc Chagall and Odilon Redon from the Museum Collection

当館が所蔵する2,000点近くのヨーロッパ版画から、版画にも数々の傑作を残した二人のフランス絵画の巨人、マルク・シャガール(1887-1985)とオディロン・ルドン(1840-1916)を選び、7つのシリーズによる119点の版画を展示。シャガールの華やかな色彩世界と、ルドンのあらゆる色を含んだ深い黒の世界が対比される。

主催: 神奈川県立近代美術館

会期: 2009年4月4日(土)~5月10日(日)

休館日: 月曜日(ただし5月4日は開館)、4月30日(木)、5月7日(木)

開催日数: 31日

出品総点数: 119点(展示替有)

総観覧者数: 8,691人

担当学芸員: 李美那、丸尾尚子

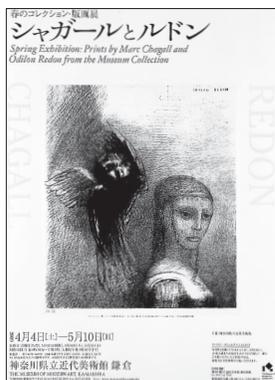
関連企画

1) ギャラリートーク 4月11日、5月9日

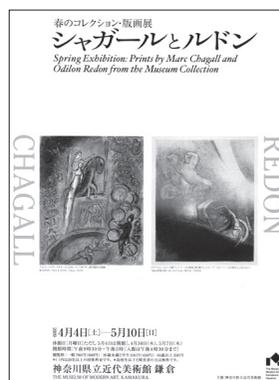
関連記事

▼ 展覧会紹介: 8誌(10回)

▼ 情報掲載: 4紙/12誌(28回)



ポスター



チラシ

担当学芸員コメント

7シリーズのうち4つは望月富助氏による、2つは岡長三郎氏による寄贈で、館の歴史の中でコレクターから寄せられてきた信頼の大きさを改めて感じた。鎌倉館には図書資料を閲覧できる場所がないため、ショップ内に机を用意し、葉山館の図書室から図録や版画技法などの資料を借り出して机上に出し常時閲覧できるようにしたところ好評を得た。著作権使用料がシャガールはことのほか高く、印刷物の制作に際して思うように画像を使えなかった。近年の美術館運営において著作権使用料の確保は大切になっている。(李美那)

643

建築家 坂倉準三展 モダニズムを生きる 人間、都市、空間

JUNZO SAKAKURA, Architect

坂倉準三(1901-1969)は20世紀建築の巨匠ル・コルビュジエの弟子としてモダニズム建築・デザインの分野ですぐれた仕事を数多く残した。本展では没後40年を記念して、建築から都市、家具、インテリアなど多岐にわたる活動の全貌を振り返り、その今日的な意義を探る。住宅や家具、デザインを中心にした第2部をパナソニック電気汐留ミュージアムで同時開催。

主催：神奈川県立近代美術館、坂倉準三展実行委員会、  
読売新聞東京本社、美術館連絡協議会

特別協力：坂倉建築研究所

企画協力：坂倉準三展組織委員会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、鹿島建設、竹中工務店、  
大林組、大成建設、長谷木記念幹  
(社団法人企業メセナ協議会認定)

後援：日本建築学会、日本建築家協会、フランス大使館、  
日仏工業技術会、日本建築士会連合会日本建築士事務所  
協会連合会、建築業協会、日本インテリアデザイナー協会、  
日本インダストリアルデザイナー協会

協力：エールフランス航空、日本工学院専門学校・日本工学院八  
王子専門学校

助成：財団法人吉野石膏美術振興財団

会場デザイン：坂倉建築研究所

展示施工：椎名啓二アトリエ、精美堂、トップアート鎌倉

会期：2009年5月30日(土)～9月6日(日)

休館日：月曜日(ただし7月20日は開館)、7月21日(火)

開催日数：86日

出品総点数：324点(図面72点、写真100点、模型11点、資料75点、  
解説パネル66点)

総観覧者数：20,174人

担当学芸員：太田泰人、三本松倫代

同時開催：パナソニック電気汐留ミュージアム「建築家 坂倉準三  
展 モダニズムを住む 住宅、家具、デザイン」(7月4日-9月27日)

4) 組立建築原寸模型の組立・解体ワークショップ

組立：5月26日、27日、8月2日、(8月12日)

解体：7月5日、8月4日、9月5日

5) ワークショップ

A テグスで考える一糸が直立する?! 6月28日、8月29日

B 美術館を撮影する-鎌倉館百景 7月11日、8月30日

C 鎌倉の夏 自由研究-たてものと暮らし、たてもので暮らし 7月20日・

8月2日・9日(全3日間)

D 写真をつなげて不思議な眺め-「ツギラマ」ワークショップ 7月26日

関連記事

▼展評・解説など：

高野清見「坂倉準三 没後40年 巨匠ル・コルビュジエの正統 鎌倉・東京で展覧会」『読売新聞』2009年6月4日、25面

永田晶子「日本のモダン建築追求 神奈川県立近代美術館で坂倉準三展」『毎日新聞』2009年6月18日、16面

高階秀爾「目は語る 坂倉準三が残したもの 発想の自在さと調和の感覚」『毎日新聞』2009年7月16日夕刊、6面

五十嵐太郎「坂倉準三展 本家しのぐモダニズム建築」『東京新聞』2009年8月14日夕刊、7面

大西若人「建築家・坂倉準三展 白い模型 軽快さを放つ 神奈川県立近代美術館・鎌倉館」『朝日新聞』2009年8月27日夕刊、16面

住友文彦「Art」『中央公論』2009年8月号、中央公論新社、2009年8月、巻頭

藤森照信「坂倉準三と20世紀建築史との交点」『新建築』2009年8月、新建築社、2009年8月、pp.22-23

▼展覧会紹介：1紙/22誌(26回)

▼情報掲載：8紙/17誌(72回)

カタログ

23×18.5cm、208ページ、販売価格2,600円

多色140図、単色197図、単色挿図32図

編集：神奈川県立近代美術館(太田泰人、三本松倫代)

編集・制作：アーキメディア(下田泰也、臺真理子)

編集協力：坂倉建築研究所(萬代恭博、鶴時進、河田佳織)、北村紀史、小原沢あかね

デザイン：schtücco(秋山伸、堤あやこ、松井健太郎)

制作協力：株式会社シグマ

印刷：株式会社プライズコミュニケーション

発行人：東和久

発行・発売：アーキメディア

ごあいさつ、謝辞、目次

人間のための建築(高階秀爾)

坂倉準三の居場所①(磯崎新)

時代をリードした、坂倉先生の歴史認識と国際性(菊竹清訓)

パリ万博日本館と神奈川県立近代美術館について(二川幸夫)

追想—準三先生(北村脩一)

カタログ

Section 1 バリ、ル・コルビュジエのアトリエへ

Section 2 戦争と建築

Section 3 新しい創造へ

Section 4 モダニズムを生きる

Section 5 時代の建築をつくる

Section 6 輝く都市を越えて

坂倉準三の建築—その都市と公共空間へのまなざし(松隈洋)

難波・渋谷・新宿—戦後都市と坂倉準三のターミナルプロジェクト郡(青井哲人)

ル・コルビュジエのもとでの修業時代—坂倉準三がアトリエで作成した図面を

通して(山名善之)

略年譜、建築作品リスト、参考文献、展覧会組織・模型制作、写真クレジット・

収蔵先

関連企画

1) 坂倉準三展記念シンポジウム 7月12日(国際文化会館)

2) ギャラリートーク 6月27日、7月5日、19日、8月8日、22日

3) 建築ツアー 9月4日



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

坂倉の没後40年記念企画。1997年に開催した「坂倉準三の仕事」展が1951年の鎌倉館建設までを取り上げたのに対して、全生涯の仕事を概観することを目指した。新館が閉館という事態を受けて、展示面積の不足を補うため、東京のパナソニック電気汐留ミュージアムと同時開催とし、鎌倉では公共建築とターミナルなど大規模計画、汐留では住宅建築と家具・デザインをそれぞれ分担して展示した。また東京理科大学山名研究室の協力を得て戦争組立建築(1941年)の原寸模型を屋外に設置し、組立・解体のワークショップを行ったほか、東京の国際文化会館で記念シンポジウムを開催、建築ツアー、ワークショップなども実施して、展示と関連事業の範囲の拡大を積極的に試みた。(太田泰人)

644

## 麻生三郎とそのコレクション

### ASO Saburo and His Collection

戦前・戦後を通じて、日本美術界を牽引した重要な画家のひとり、麻生三郎(1913-2000)は、共感する他の画家の作品を手元に置いて刺激を受けたコレクターでもあった。当館に寄贈された知られざるそのコレクション(53点)の全貌を紹介し、あわせて麻生三郎自身の作品(油彩6点、水彩デッサン9点、彫刻1点)を展示する。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2009年9月19日(土)～11月3日(火・祝)

休館日：月曜日(ただし9月21日、10月12日は開館)、9月24日(木)、  
10月13日(火)

開催日数：39日

出品総点数：76点

総観覧者数：5,287人

担当学芸員：水沢勉、是枝開

#### 関連企画

1) ギャラリートーク 10月10日、24日

#### 関連記事

▼展評・解説など：

竹田博志「『麻生三郎とそのコレクション』展 作家の強固な意思にじむ」『日経新聞』2009年9月30日、44面

▼展覧会紹介：8誌(8回)

▼情報掲載：3紙/12誌(33回)

#### カタログ

21.6×15.4cm、72ページ、販売価格1,400円

多色8図、単色15図、単色挿図53図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

制作・デザイン：美術出版社

ごあいさつ、目次

この無言の確立を見よ—麻生三郎コレクションをめぐって(水沢勉)

麻生三郎コレクションに寄せて—私の視点から(麻生マユ)

図版

麻生三郎 水彩・素描・彫刻

麻生三郎コレクションリスト

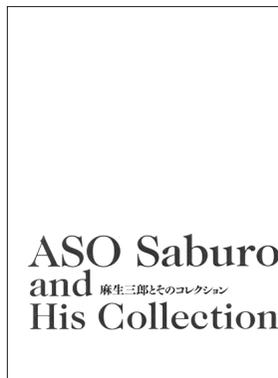
コレクション解説

麻生三郎略年譜

出品作品リスト



ポスター



カタログ表紙

#### 担当学芸員コメント

麻生三郎が共感し所蔵していた画家や彫刻家の作品と、麻生自身が制作した作品との展示構成のリズムやコンビネーションを考慮して、展示計画を幾度も検討した。麻生がどのような視点で同時代の美術を捉えながら自身の作品を展開していったのか、それを来館者に概観しながら感じてもらえるように留意した。結果的に、麻生のように優れた画家は、優れた「見る」人間でもあり、そして優れた鑑賞者でもあるということを証明するような展覧会となった。担当者としては、単なる影響関係ではない、麻生の眼の力を感じさせるような展示を目指した。(是枝開)

645

内藤礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している  
Naito Rei : Tout animal est dans le monde comme de l'eau à l'intérieur de l'eau.

空間を満たす光、空気の揺らぎ、周囲の音—造形を取り巻く要素を作品の場へと紡ぎだす、現代日本を代表するアーティストのひとり、内藤礼(1961-)が、展示室と館外の自然が交錯する鎌倉館に、新作を中心とするインスタレーションを展開した個展。

主催：神奈川県立近代美術館  
協賛：SHISEIDO  
会期：2009年11月14日(土)～2010年1月24日(日)  
休館日：月曜日(ただし11月23日、1月11日は開館)、11月24日(火)、  
12月24日(木)、12月28日(月)～1月4日(月)、1月12日(火)  
開催日数：55日  
出品総点数：9点  
総観覧者数：13,830人  
担当学芸員：水沢勉、三本松倫代、朝木由香

#### 関連企画

- 1)内藤礼氏によるアーティスト・トーク 2010年1月11日
- 2)ギャラリートーク 11月23日、12月6日、2010年1月17日

#### 関連記事

- ▼展評・解説など：
  - 稲葉千寿「内藤礼さん『世界との連続性』主題に」『東京新聞』2009年11月7日夕刊、7面
  - 藤島俊会「神奈川の文化時評『NPOと文化施設の使命』内藤礼展」『神奈川新聞』2009年12月25日、17面
  - 児島やよい「Very Vogue」『VOGUE ヴォーグニッポン』2009年12月号、コンテナスト・パブリケーションズ・ジャパン、2009年12月、p.280
  - 岸桂子「『内藤礼』展 外と内結ぶ繊細な装置」『毎日新聞』2010年1月5日夕刊、4面
  - 大西若人「内藤礼展 日常が聖とつながる快感」『朝日新聞』2010年1月6日夕刊、3面
  - 金子徹「美術展『内藤礼』見えないものをつくる」『赤旗新聞』2010年1月13日号、9面
  - 清「特別ではない『聖なる瞬間』内藤礼 地上はどんなところだったか」『読売新聞』2010年1月18日夕刊、8面
  - 「アートクルーズ」『SANKEI EXPRESS』1129号、産業経済新聞社、2010年1月、p.12

「INSIDE THE EXHIBITION」『美術手帖』2010年1月号、美術出版社、2010年1月、ART NAVI pp.20-21  
内藤礼、茂木健一郎：対談「知覚経験の深みへ：生命の喜びに拮抗する脳科学」『脳科学は何を変えようか?』、エクスマレッジ、2010年1月、pp.11-39  
内藤礼・西沢立衛：対談「A Wall Newspaper」『CASA BRUTUS』11巻1号、マガジンハウス、2010年1月、p.159  
「ART」『Real Desing』61号、樞出版社、2010年2月、p.141  
『中央公論』1510号、中央公論社、2010年2月  
▼展覧会紹介：1紙/18誌(19回)  
▼情報掲載：3紙/24誌(48回)

#### カタログ

28.1×21.3cm、64ページ、販売価格1,300円

多色32図

編集：神奈川県立近代美術館

執筆：内藤礼、山梨俊夫、水沢勉、三本松倫代

写真：島山直哉

デザイン：下田理恵

翻訳：宮田浩介(pp.36-37)、河野晴子(pp.40-41/46-49)、山川純子(pp.54-57)

制作：美術出版社

発行：神奈川県立近代美術館

#### 図版

[無題] (内藤礼)

[Untitled] (Naito Rei)

緒言—あいさつに代えて(山梨俊夫)

Prolusion-in lieu of the Foreword (Yamanashi Toshio)

ブネウマの訪れ—内藤礼のいまへ(水沢勉)

The Coming of Pneuma-For Naito Rei Today (Mizusawa Tsutomu)

内なる自然がうたう愛(三本松倫代)

Inner Nature Sings of Love (Sanbonmatsu Tomoyo)

略歴・個展・グループ展・出版物・受賞・パーマネント作品・コレクション

参考文献(編：朝木由香)

出品リスト、謝辞



ポスター



カタログ表紙

#### 担当学芸員コメント

鎌倉館の建築構造と立地環境を十分に取り入れ、風や光といった自然をも作品化する内藤礼のサイト・スペシフィックな全館インスタレーション展示によって、坂倉準三の代表作である鎌倉館の建築に新たな生命が吹き込まれたように感じた。アーティスト・トークには400名を越える方々が参加したのを始め多くの来館者を迎えたが、壁面作り付けのガラスケースに鑑賞者が入り、ケースの内と外の鑑賞者が互いに見られる対象となる第一展示室の作品において、最小限の誘導で混乱なく鑑賞がなされたことは、作品と鑑賞者との関係性に新たな可能性を感じさせた。(三本松倫代)

646  
松谷武判展 一流動 Stream—  
MATSUTANI Takesada

大阪に生まれ、現在パリで活動する日本を代表する現代作家、松谷武判(1937-)の個展。具体美術展デビュー以来、鉛筆をもちいて実験的な表現を追求してきたアーティストの世界を、新作を中心に紹介。

主催：神奈川県立近代美術館  
会期：2010年2月6日(土)～3月28日(日)  
休館日：月曜日(ただし3月22日は開館)、2月12日(金)、3月23日(火)  
開催日数：43日  
出品総点数：30点  
総観覧者数：5,077人  
担当学芸員：水沢勉、稲庭彩和子、奥野美香

関連企画

松谷武判氏によるパフォーマンス 2月6日  
松谷武判氏によるアーティスト・トーク 同時上映「MATSUTANI 1, 2」(モントリオール国際芸術映画祭入選作品) 2月7日  
ギャラリートーク 3月6日、20日

関連記事

▼展評・解説など：  
三田晴夫「アートの風 松谷武判展 渾身の迫力と神韻たる余情」『毎日新聞』2010年2月17日夕刊、6面  
松谷武判インタビュー「Kanon Sence アーティスト 松谷武判」『Kanon』Vol.18 Spring、美研インターナショナル、2010年2月、p.15  
清「松谷武判展 流動と線 深遠な世界」『読売新聞』2010年3月1日夕刊、9面  
大西若人「松谷武判展 無限の時間含んだモノトーン」『朝日新聞』2010年3月3日夕刊、3面  
大西若人「美・博ピックアップ『松谷武判展』」『朝日新聞』2010年3月3日夕刊、4面  
Edward M.Gomez, "Matsutani's Moment", *Art in America*, vol.98 No.5 May 2010, pp.136-142



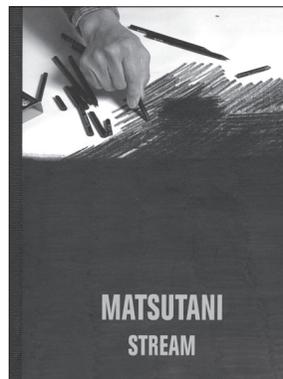
ポスター

▼展覧会紹介：2紙/2誌(6回)  
▼情報掲載：4紙/12誌(30回)

カタログ

26.4×19.6cm、124ページ、販売価格1,800円  
多色30図、多色挿図4図、単色挿図22図  
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
翻訳：レオ・スティーヴン・トルゴフ、小川紀久子、朝木由香  
製作：求龍堂  
デザイン：U.Shima

謝辞、あいさつ、目次  
黒の方法(山梨俊夫)  
The Method of Black (YAMANASHI Toshio)  
松谷—つかの間の永遠(ジャン=ミシェル・ブールール)  
Matsutani (Jen-Michel BOUHOURS)  
松谷武判さんのこと(安藤忠雄)  
On MATSUTANI Takesada (ANDO Tadao)  
松谷武判インタビュー(聞き手：水沢勉、稲庭彩和子)  
流動がもたらす磁場—インタビューを終えて(稲庭彩和子)  
図版  
年譜  
主要参考文献(編：奥野美香)  
作品目録、パブリック・コレクション



カタログ表紙

担当学芸員コメント

1960年代以来パリのアトリエを拠点に制作を続けてきた松谷武判の、東日本の美術館での初個展。会場では新作10点を含む近作を中心に紹介。平面作品に加え、インスタレーションや、彫刻室でのパフォーマンス、ドキュメンタリー映像「MATSUTANI 1, 2」など上映も行い、松谷武判の近年の作品世界を多角的に知らせる機会となった。パフォーマンスには200名を越える来館者が関西、遠くは九州から集まり、また会期中には企画協力でNPOと連携した幼稚園児対象のプログラムや県立高校と連携したプログラムを作家とともに開催し、幅広い層から反響を得た。(稲庭彩和子)

647

## 新収蔵作品展

## New Acquisitions

2008年度に収蔵された作品を中心に、近年の収蔵作品を紹介。環境音楽の作家吉村弘の資料も特別展示する。約50点のこうした多彩な作品資料を通して、年毎に成長していくコレクションのありさまを楽しんでいただく展覧会。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2009年4月4日(土)～5月24日(日)

休館日：月曜日(ただし5月4日は開館)、4月30日(木)、5月7日(木)

開催日数：43日

出品総点数：65点

総観覧者数：3,114人

担当学芸員：水沢勉

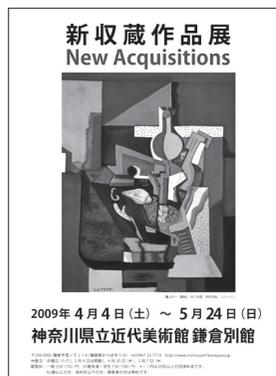
## 関連企画

1) ギャラリートーク 4月25日、5月16日

## 関連記事

▼展覧会紹介：7誌(8回)

▼情報掲載：2紙/7誌(18回)



ポスター

## 担当学芸員コメント

2003年葉山館開館以後、収蔵品の本格的な修復計画を策定し、順次修復を行い、新収蔵作品を紹介する年一度の機会である本展にそれらの修復作品を展示するように心がけている。本展では、イサム・ノグチ、若林奮、ジャン・アルブの彫刻作品が前年度に修復を終えて展示された。購入作品では、岡村桂三郎、伊庭靖子、関合正明、高橋力雄、湯原和夫が個展開催を機にコレクションに加わった。鷹山宇一の初期の多色木版《静物》は、日本近代版画史を飾る貴重な作品である。その他、片岡球子、矢嶋美枝子、二見彰一、浜田知明、藤原吉志子についてはまとまった寄贈があった。吉村弘の出版社「sometimes press」についても洋子夫人よりの寄贈資料に基づき小特集展示された。(水沢勉)

648

美術館はぼくらの宝箱 子どもたちの視点ができるもの

The Museum is Our Treasure Box! —Fun of Looking at the Collection with Children

当館が制作した「Museum Box 宝箱」という美術館キットをきっかけに、この数年間美術館を楽しんできた子どもたちがいる。本展は、その子どもたちの新鮮な言葉や映像とともに、美術館や珠玉のコレクションの魅力を紹介する展覧会である。

主催：神奈川県立近代美術館

協力：国立情報学研究所

会期：2009年6月6日(土)～9月6日(日)

休館日：月曜日(ただし7月20日は開館)、7月21日(火)

開催日数：80日

出品総点数：27点

総観覧者数：6,803人

担当学芸員：稲庭彩和子

ガイドブック

子どもと楽しむためのガイドブック

18.2×12.7cm、ガイドブック、15ページ、無料配布

絵：インベミズホ

デザイン：今井千恵子(n.b graphics)

制作：コギト

文・構成：稲庭彩和子

編集・発行：神奈川県立近代美術館

#### 関連企画

- 1)「Museum Box 宝箱」がひらく知の世界への扉(共同研究展示)
- 2)「Museum Box 宝箱」体験&ギャラリートーク「宝箱で遊ぼう」 7月25日、2面  
8月22日

#### 関連記事

##### ▼展評・解説など：

結城昌子「『美術館はぼくらの宝箱』展から 子ども視点にハッとする」『東京新聞』2009年6月26日夕刊、7面

〈社説〉「美術館と教育『自分』発見する楽しみ」、神奈川新聞、2009年9月5日、2面

##### ▼展覧会紹介：8誌(8回)

##### ▼情報掲載：3紙/6誌(25回)



ポスター



ガイドブック表紙

#### 担当学芸員コメント

当館の代表作品を、作家の言葉と鑑賞した子どもたちの言葉をあわせて紹介した展覧会。子どもたちの言葉は、当館が2006年に制作した美術館キット「Museum Box 宝箱」の活用から広がった学校と美術館の連携活動のなかで収録されたものだ。特に、横浜国立大学附属鎌倉小学校の児童や、県立大清水高校(現県立藤沢清流高校)の美術館学入門の授業を選択した生徒との、それぞれ4年に亘る連携活動から生まれた鑑賞の様子は映像にまとめ、展示室で上映した。また一方でこの展覧会は国立情報学研究所(NII)との共同研究とも連動しており、「Museum Box 宝箱」カードと、NIIの無線ICタグ技術および「想-IMAGINE」連想検索システムとを組み合わせ、鑑賞体験と知識空間が連続的につながる環境を、展示室内で実際に体験できるツールとして実現した。収蔵品の展示空間、記録映像の展示空間、情報検索の空間の3つの場を連携させ、作品とのコミュニケーションを促す鑑賞空間を試みた。観覧者からは「子どもたちの直感的な言葉は、多様な視点を気づかせてくれた」という声がアンケートで寄せられ、むしろ大人が子どもの言葉によって作品を発見する状況が生まれていたことがわかり、企画に対して共感を得られたことが感じられた。「Museum Box 宝箱」を貸出利用した学校からの来館も多く、小規模な展示であったが、7,000名近い来館者があった。(稲庭彩和子)

649

## 北川原コレクション

## The Kitagawara Collection

当館の美術館活動に理解を示された北川原夫妻のコレクションの寄贈を記念した展覧会。ジョージ・グロス(1880-1954)やアンドレ・ドラ  
ン(1893-1959)などのヨーロッパの作家作品11点と海老原喜之助や鳥海青児など日本近現代の洋画家作品61点、総数72点を展示する。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2009年9月19日(土)～12月20日(日)

休館日：月曜日(ただし9月21日、10月12日、11月23日は開館)、  
9月24日(木)、10月13日(火)、11月4日(水)、24日(火)

開催日数：79日

出品総点数：72点

総観覧者数：4,063人

担当学芸員：橋秀文

## 関連企画

1)ギャラリートーク 10月17日、11月28日

## 関連記事

▼展覧会紹介：4誌(4回)

▼情報掲載：2紙/10誌(33回)

## カタログ

21×15.4cm、56ページ、販売価格1,100円

多色16図、単色20図、単色挿図76図

制作・デザイン：美術出版社

編集・発行：神奈川県立近代美術館

## あいさつ

北川原コレクションに触れて(山梨俊夫)

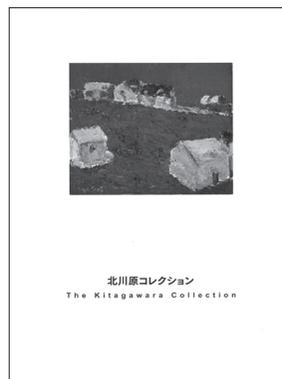
想像的創作活動から生まれた鳥海青児作《修理のある家 沖縄風景》(橋秀文)  
図版

北川原夫妻略歴、北川原コレクション作家作品解説、北川原コレクション出品リ  
スト

謝辞



ポスター



カタログ表紙

## 担当学芸員コメント

当館の美術館活動に理解を示された北川原夫妻のコレクションの寄贈を記念して作品の初公開となる展覧会。2008年度寄贈分の総数67点中8点がジョージ・グロスやア  
ンドレ・ドラなどヨーロッパの近代画家の作品で、残る59点が、海老原喜之助、鳥海青児、長谷川利行など当館が幾度となく紹介してきた近・現代日本の洋画家の作品  
となっている。開催時から他館に情報が行き渡り、その後、三岸節子展や菅野圭介展に北川原コレクションの作品が貸し出されるなど、対外的にも注目を浴びる展覧会  
だった。(橋秀文)

650

## 所蔵品によるイギリスの版画

### Museum Collection-British Prints

ケネス・アーミテージ、リチャード・ハミルトン、ウィリアム・スコット、ヘンリー・ムーア、ウィリアム・ブレイク、ウィリアム・ホガースなど、収蔵する西洋版画コレクションのなかからイギリス版画80点を選んで展示する。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2010年1月5日(火)～3月28日(日)

休館日：月曜日(ただし1月11日、3月22日は開館)、1月12日(火)、  
2月12日(金)、3月23日(火)

開催日数：71日

出品総点数：80点

総観覧者数：3,460人

担当学芸員：長門佐季

パンフレット

19×14cm、4つ折り(開くと35×25cmとなる)、無料配布

単色6図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

イギリスの版画展 作家・作品解説(長門佐季)

出品リスト

#### 関連企画

ギャラリートーク 1月23日、2月20日

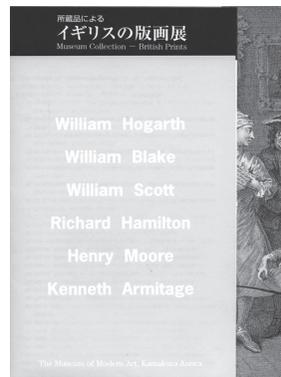
#### 関連記事

▼展覧会紹介：1紙/2誌(4回)

▼情報掲載：2紙/9誌(25回)



ポスター



パンフレット表紙

#### 担当学芸員コメント

収蔵品のなかから、普段なかなか展示する機会が少ない版画作品を紹介する試みとしての企画。今回はイギリスをテーマに時代の枠にとらわれず作品を選択し、ホガースやブレイクなど物語性の強い作品を多く展示した。とくにホガースの「放蕩一代」や「遊女一代」などは、版画が現在の映画やテレビのようなメディアとしてあった時代に世に送り出されたもので、当時の時代性を色濃く反映させているばかりでなく、現代社会にも通じる戒めを込めたメッセージとも思われた。(長門佐季)

2009年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数(人)				他館との 開催協力 など
						有料観 覧者数	無料観 覧者数	うち 中学生 以下	観覧者 数合計	
葉山館	莊司福展	4月11日(土)～ 6月14日(日)	55日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	900円 750円 450円	6,092	2,437	325	8,529	
	画家の眼差し、レンズの眼	6月27日(土)～ 8月23日(日)	50日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	4,774	2,132	660	6,906	
	フランスの浮世絵 アンリ・リヴィエール展	9月5日(土)～ 10月12日(月・祝)	33日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200円 1,050円 600円 100円	8,121	2,870	552	10,991	巡回： 石川県立美術館 山口県立萩美術館 浦上記念館
	白樺派の愛した美術	11月3日(火・祝) ～12月20日(日)	41日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000円 850円 500円 100円	3,683	3,849	388	7,532	巡回： 京都文化博物館 宇都宮美術館 (財)ひろしま美術館
	長澤英俊展	1月9日(土)～ 3月22日(月)	62日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	900円 750円 450円 100円	3,429	2,043	445	5,472	巡回： 川崎市立美術館、 埼玉県立近代美術館 国立国際美術館 長崎県美術館
	小計		241日			26,099	13,331	2,370	39,430	
鎌倉館	シャガールとルドン	4月4日(土)～ 5月10日(日)	31日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	6,296	2,395	1,230	8,691	
	建築家 坂倉準三展	5月30日(土)～ 9月6日(日)	86日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	900円 750円 450円 100円	14,911	5,263	2,006	20,174	同時開催 パナソニック電工 汐留ミュージアム
	麻生三郎とそのコレクション	9月19日(土)～ 11月3日(火・祝)	39日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	3,872	1,415	451	5,287	
	内藤礼展	11月14日(土)～ 1月24日(日)	55日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	11,389	2,441	514	13,830	
	松谷武判展	2月6日(土)～ 3月28日(日)	43日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	700円 550円 350円 100円	2,805	2,272	765	5,077	
	小計		254日			39,273	13,786	4,966	53,059	
鎌倉別館	新収蔵作品展	4月4日(土)～ 5月24日(日)	43日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	2,246	868	248	3,114	
	美術館はぼくらの宝箱	6月6日(土)～ 9月6日(日)	80日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	250円 150円 100円 100円	3,727	3,076	1,850	6,803	
	北川原コレクション展	9月19日(土)～ 12月20日(日)	79日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	250円 150円 100円 100円	3,245	818	180	4,063	
	イギリスの版画	1月5日(火)～ 3月28日(日)	71日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	250円 150円 100円 100円	2,701	759	222	3,460	
	小計		273日			11,919	5,521	2,500	17,440	
	合計	14展覧会				77,291	32,638	9,836	109,929	

# 教育普及活動

## 受講・参加プログラム (講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)

事業名	事業内容				参加者数	
	テーマ・内容	講師等	実施日	実施場所		
講演会	「荘司福展」講演会	「母、荘司福のこと」	荘司準(荘司福ご子息)	H21.5.17	葉山館講堂	75
	「画家の眼差し、レンズの眼」展講演会	「写真の自立—美術としての写真」	岡塚章子(江戸東京博物館学芸員)	H21.7.19	葉山館講堂	49
	「アンリ・リヴィエール展」講演会	「バリの浮世絵師 アンリ・リヴィエール」	馬淵明子(日本女子大学教授)	H21.9.26	葉山館講堂	63
	「白樺派の愛した美術」展開催記念講演会	「『白樺』とその時代」	館長 山梨俊夫	H21.11.3	葉山館講堂	66
アーティスト・トーク	「長澤英俊展」アーティスト・トーク	作家自身による作品解説	彫刻家 長澤英俊	H22.1.10	葉山館	20
	「内藤礼展」アーティスト・トーク	作家自身による作品解説	彫刻家 内藤礼	H22.1.11	鎌倉館	500
	「松谷武判展」アーティスト・トーク	作家自身による作品解説	美術家 松谷武判	H22.2.7	鎌倉館	70
パフォーマンス	「松谷武判展」パフォーマンス	作家自身によるパフォーマンス	美術家 松谷武判	H.22.2.6	鎌倉館	120
	「酒井幸菜」ダンスパフォーマンス	“In the Light, Hayama”	酒井幸菜、表現(hyogen)	H22.3.14	葉山館	80
	「酒井幸菜」ダンスパフォーマンス	“In the Wind, Kamakura”	酒井幸菜、表現(hyogen)	H22.3.21	鎌倉館	80
ワークショップ	「夏の鎌倉でミュージアムを見よう知ろう 楽しもう」ワークショップ	「テグスで考える—糸が直立する?!」	案内人 岩崎清(元こどもの城造形事業部長)	H21.6.28午前	鎌倉館	3
			H21.6.28午後	鎌倉館	10	
			H21.8.29午前	鎌倉館	26	
			H21.8.29午後	鎌倉館	5	
		「美術館を撮影する—鎌倉館百景」	案内人 岩崎清(元こどもの城造形事業部長)	H21.7.11	鎌倉館	7
			H21.8.30	鎌倉館	13	
		「鎌倉の夏 自由研究—たてものと暮らし、たてもので暮らす」	案内人 木下直之(東京大学教授)	H21.7.20	鎌倉館	12
			H21.8.2	鎌倉館	12	
			H21.8.9	鎌倉館	9	
		「写真をつなげて不思議な眺め—「ツギラマ」ワークショップ」	講師 糸崎公朗(美術家・写真家)	H21.7.26	鎌倉館	13
「『Museum Box 宝箱』体験&ギャラリートーク「宝箱で遊ぼう」」	学芸員 稲庭彩和子	H21.7.25	鎌倉別館	6		
	H21.8.22	鎌倉別館	15			
シンポジウム	「建築家 坂倉準三展」開催記念シンポジウム	坂倉準三の「位置」を考える	パネラー 磯崎新(建築家) 高階秀爾(美術史家、大原美術館館長) ほか モデレーター 鈴木博之(建築史家)	H21.7.12第1部	財団法人 国際文化会館・岩崎小彌太記念ホール	150
			講演 内藤廣(建築家) パネラー 青井哲人(明治大学) 北村紀史(元坂倉建築研究所) 田路貴浩(京都大学) 松隈洋(京都工芸繊維大学) 萬代恭博(坂倉建築研究所) 山名善之(東京理科大学) コメンテーター 内藤廣 モデレーター 太田泰人(神奈川県立近代美術館)	H21.7.12第2部	財団法人 国際文化会館・岩崎小彌太記念ホール	150
ギャラリートーク	ギャラリートーク/ 「シャガールとルドン」展	当館学芸員による作品解説	主任学芸員 李美那	H21.4.11	鎌倉館	40
			主任学芸員 李美那	H21.5.9	鎌倉館	51
	ギャラリートーク/ 「荘司福展」		専門学芸員 橋秀文	H21.4.18	葉山館	11
			専門学芸員 橋秀文	H21.5.16	葉山館	7
			専門学芸員 橋秀文	H21.5.30	葉山館	23
	ギャラリートーク/ 「新収蔵品展」		副館長 水沢勉	H21.4.25	鎌倉別館	3
			副館長 水沢勉	H21.5.16	鎌倉別館	10
ギャラリートーク/ 「美術館はぼくらの宝箱」展	学芸員 稲庭彩和子	H21.7.25	鎌倉別館	6		
	学芸員 稲庭彩和子	H21.8.22	鎌倉別館	15		

ギャラリートーク	ギャラリートーク/ 「建築家 坂倉準三展」	当館学芸員による作品解説	普及課長 太田泰人 学芸員 三本松倫代	H21.6.27	鎌倉館	40				
			学芸員 三本松倫代	H21.7.5	鎌倉館	26				
			普及課長 太田泰人 学芸員 三本松倫代	H21.7.19	鎌倉館	32				
			普及課長 太田泰人 学芸員 三本松倫代	H21.8.8	鎌倉館	36				
			普及課長 太田泰人 学芸員 三本松倫代	H21.8.22	鎌倉館	40				
			主任学芸員 長門佐季	H21.7.4	葉山館	20				
			専門学芸員 橋秀文	H21.8.8	葉山館	15				
			主任学芸員 李美那	H21.9.5	葉山館	27				
			主任学芸員 李美那	H21.10.3	葉山館	60				
			主任学芸員 是枝開	H21.10.10	鎌倉館	14				
			副館長 水沢勉	H21.10.24	鎌倉館	16				
			専門学芸員 橋秀文	H21.10.17	鎌倉別館	10				
			専門学芸員 橋秀文	H21.11.28	鎌倉別館	14				
			主任学芸員 初山昌夫 学芸員 奥野美香	H21.11.15	葉山館	20				
			主任学芸員 初山昌夫 学芸員 奥野美香	H21.11.29	葉山館	30				
ギャラリートーク	ギャラリートーク/ 「白樺派の愛した美術」展	当館学芸員による作品解説	学芸員 三本松倫代	H21.11.23	鎌倉館	35				
			学芸員 三本松倫代 学芸員 朝木由香	H21.12.6	鎌倉館	27				
			副館長 水沢勉 学芸員 三本松倫代	H22.1.17	鎌倉館	87				
			主任学芸員 長門佐季	H22.1.23	鎌倉別館	13				
			主任学芸員 長門佐季	H22.2.20	鎌倉別館	3				
			主任学芸員 是枝開 学芸員 三本松倫代	H22.1.24	葉山館	13				
			主任学芸員 是枝開	H22.2.21	葉山館	10				
			主任学芸員 是枝開 学芸員 三本松倫代	H22.3.14	葉山館	20				
			ギャラリートーク	ギャラリートーク/「内藤礼」展	作家と当館学芸員による作品解説	美術家 松谷武判 副館長 水沢勉 学芸員 奥野美香 学芸員 稲庭彩和子	H22.3.6	鎌倉館	30	
						美術家 松谷武判 副館長 水沢勉 学芸員 奥野美香 学芸員 稲庭彩和子	H22.3.20	鎌倉館	10	
			ツアー	「建築家 坂倉準三展」 建築ツアー (旅行費用11,800円(税込み)昼食付き)	「建築家坂倉準三のモダニズム作品を巡る」	同行講師 萬代恭博(坂倉建築研究所 執行役員、坂倉準三展組織委員会制作 委員) 北村紀史(魁総合設計事務所、坂倉準 三展組織委員会制作委員)	H21.9.4	東京日仏学院 岡本太郎記念館 (通常非公開部分 を含む) 神奈川県庁新庁舎 (議場、展望室) シルクセンター 神奈川県立近代 美術館 鎌倉	40	
			(受講料各回1,000円)	「白樺派の愛した美術」展 県立機関活用講座 連続講演会(全5回)		第1回 『白樺』の挿絵—マネ、セザンヌ、 ルノワール、ヴァロットン—	ブリヂストン美術館館長 島田紀夫	H21.11.7	葉山館講堂	20
						第2回 梅原龍三郎と白樺	梅原龍三郎・木下利玄曾孫 嶋田華子	H21.11.28	葉山館講堂	33
						第3回 「或る女」と『暗夜行路』 —「白樺」・非「白樺」	早稲田大学名誉教授 紅野敏郎	H21.12.5	葉山館講堂	26
第4回 資料に見る「白樺派の愛した美術」	武者小路実篤記念館首席学芸員 福島 さとみ	H21.12.12				葉山館講堂	20			
第5回 フォーグラーからロダンへ	帝塚山学院大学教授 山田俊幸	H21.12.19				葉山館講堂	18			

## 研修等受入プログラム（実習・研修・団体観覧等）

### 1) 博物館学芸員実習：4大学から5名受入

大学での博物館学履修学生を対象。本年は「白樺派の愛した美術」展の準備と、開催中のギャラリートーク実施を目指した実習を中心に行った。

学生の実習内容充実と指導する学芸員の業務との両立を期すため、書類により選考して受け入れた。

### 2) インターン研修：5名受入

主に大学院生を対象に、学芸部門と保存修復部門とで実施。あらかじめ各部門に研修希望登録をした学生の中から採用。本年は学芸部門4名、保存修復部門3名の研修希望登録者があり、それぞれ4名と3名を採用した。学芸員等を指導者とし、専門的業務を行いながら研修し、160時間以上の研修を修了した3名には修了証を発行した。

### 3) 職場体験：中学校 6校延べ16回40名

高校 3校延べ7回13名

学校のカリキュラムとして行われている職場体験を受入れ。受付・監視・案内、学芸員の日常業務など、美術館での様々な業務を体験

### 4) 教員研修：11団体延べ25回101名

県内の教員の各種研修、鑑賞教育をテーマとした部会の開催などを受入れている

### 5) 学校等教育機関等の団体観覧

学校教育機関での団体観覧がある場合、できるだけ事前に引率の先生と連絡をとり、必要に応じて、美術館での過ごし方や作品の楽しみ方などについての事前授業を支援するよう努めている。以下は事前申し込みにより把握している受入数。事前申し込みのない団体もあるので、実数はこのデータを上回る。なお、人数は引率者を含める。

幼稚園：	1園55名
小学校：	6校延べ26回1,157名
中学校：	9校延べ20回515名
高校：	14校延べ18回1,072名
大学：	8校延べ8回185名
専門学校：	2校延べ2回28名
養護学校等：	4校延べ4回61名

福祉施設・子育て支援NPO・各種社会教育機関などの団体来館もあり、年々利用団体が増えている。

病院・福祉施設：	3施設3回69名
子育て支援NPO：	2団体延べ4回107名
他美術館からの団体：	2団体2回80名
公民館・大学生涯学習施設等：	15団体15回406名
学会・学校団体：	3団体3回81名

## 美術館活用推進委員会

2007年度に発足したこの委員会は、正式名称を「〈人づくり・学びの場としての美術館〉活用推進委員会」といい、葉山町・逗子市・鎌倉市の各教育委員会、教員、大学教授、NPO、在野の美術館活動研究者、当館学芸員など、様々な立場の人間が集まって意見交換し、美術館を多面的な形で活用するための議論を深めるプラットフォーム作りを進めてきた。本年は委員会としての予定された活動の最終年にあたり、委員から発案のあったワークショップを開催した。また、異なる立場から美術館にかかわり情報を共有する機会としての本委員会の重要性に鑑み、次年度以降も何らかの形でこのような仕組みを継続することができないか、検討することとした。

## 美術図書室

### 1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録点数 2010年3月末現在) 63,747点
- ・2009年度新規図書・図録・AV資料等登録点数 4,053点
- ・2009年度雑誌新規登録件数 927点

### 2) 特別コレクション

- ・新規受入「青木茂氏旧蔵資料」第2次 4,768点

美術図書室蔵書構成の特色のひとつである「特別コレクション」では、昨年度に引き続き美術評論家青木茂氏の旧蔵資料第2次分の受入処理を行った。今回は明治初期～戦前期にわたる貴重な版本や、現在では入手し難い専門的、学術的価値の高い美術研究書が数多く含まれており、データ作成等必要な整備を行って美術図書室での速やかな公開、利用をめざす。

- ・「山口蓬春文庫」冊子体目録刊行

念願であった「山口蓬春文庫」(3,546点)の冊子体目録を2010年3月に刊行した。内容は「和漢書」「洋書」「和雑誌」「洋雑誌」「卷子本」に分類し、巻末には「書名索引」「著者名索引」を付した。この中には貴重な図版を多く含む江戸期の版本をはじめ、戦前・戦後の各種画集、「VERVE」などフランス美術雑誌もあり、蓬春研究のみならず幅広く美術考究に活用されることが期待される。

### 3) 閲覧サービス

- ・2009年度年間入室者数 3,547名(開館日1日平均14名)
- ・年間複写枚数 1,744枚(開館日1日平均7.1枚)
- ・年間レファレンス受付件数 73件

昨年度に引き続き、エントランスホールの図書室入口に、図書室の利用案内と展覧会関連資料の案内を掲示した。

展覧会別では1万人以上が入館した「アンリ・リヴィエール」展で、1日平均22名の入室があった。特集コーナーの関連図書を手に取ってみる閲覧者も多く見られた。

なお、展覧会観覧者数に対する図書室入室者数の比率では、「長澤英俊」展が19%、「画家の眼差し、レンズの眼」展は13%で

多く、これに比例して書庫内にある関連図書の利用や、複写サービスを利用する入室者が目立った。

当室では美術に関するさまざまな質問を、来室時はもちろん電話やメールでもお応えするレファレンスサービスを行っている。寄せられた質問の中からいくつかを紹介してみる。「白馬会第6回展(明治34年)に出陳されたアンリ・リヴィエールの作品名」「シャヴァンヌ(Puvis de Chavannes)の作品が載っている資料」「モディリアニの娘が父について書いた本」など(何れも回答済)。

## 美術館紹介・広報 掲載実績

展覧会関連を除く掲載実績は以下の通り。

(申請のあったウェブサイトへの掲載数は誌に含む。各展覧会の展評・紹介記事等掲載実績は、展覧会活動の該当ページを参照。)

### 1) 美術館紹介記事

総計：39誌42回

### 2) 普及活動関連の紹介記事

総計：2紙2回/12誌21回

### 3) 収蔵作品・作家紹介記事

総計：4紙6回/32誌43回

### 4) 前年度の展覧会記事

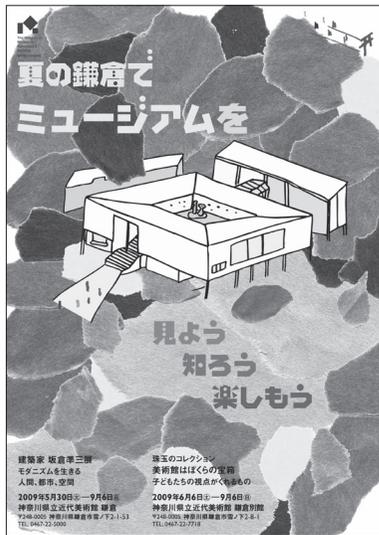
総計：1紙1回/5誌9回

### 5) 次年度の展覧会記事

総計：4紙5回/3誌8回

### 6) ショップ・レストラン紹介記事

総計：1誌1回



1

夏の鎌倉でミュージアムを  
見よう知ろう楽しもう

発行：神奈川県立近代美術館  
イラスト・デザイン：ハッ橋紀子  
印刷：株式会社ライフパック  
A4表面カラー裏面単色／無料配布  
2009年6月9日発行

ワークショップ

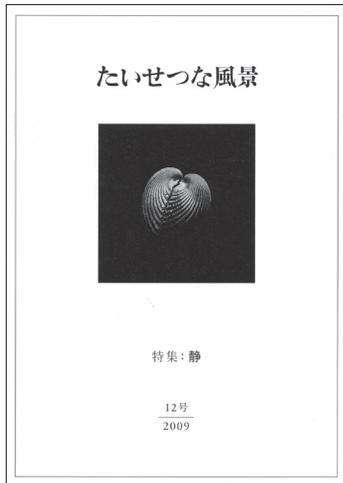
- A) テグスで考えるー糸が直立する?!
- B) 美術館を撮影するー鎌倉館百景
- C) 鎌倉の夏 自由研究ーたてもものと暮らし、たてもとで暮らす
- D) 写真をつなげて不思議な眺めー「ツギラマ」ワークショップ
- E) 「Museum Box 宝箱」体験 & ギャラリートーク「宝箱で遊ぼう」

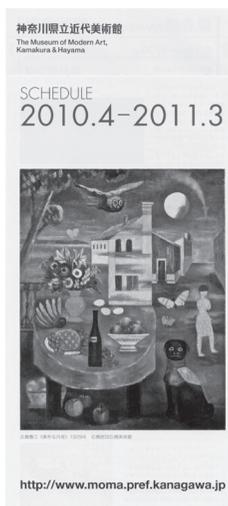
2

たいせつな風景12号

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
制作・デザイン：美術出版社  
21×14.8cm、16ページ、無料配布  
多色1図、単色5図  
2009年9月30日発行

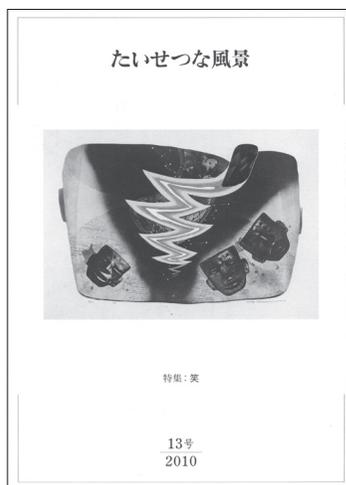
図版 眞板雅文《静思空間》  
追悼 眞板雅文(安齋重男)  
しず心なく (辻原登)  
閑さや (長谷川權)  
「statics」(クリストフ・シャルル)  
表紙作品解説 秀島由己男《shell》  
(奥野美香)  
編集雑記





### 3 2010年度展覧会スケジュール

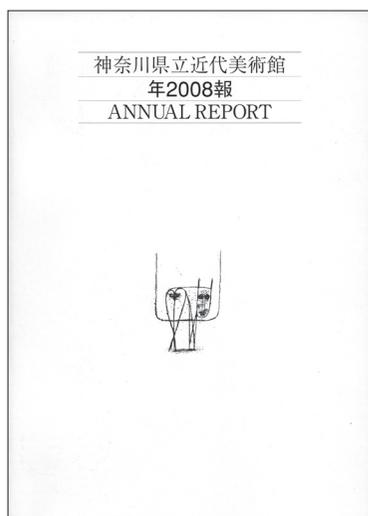
編集・発行：神奈川県立近代美術館  
 制作：半七写真印刷工業株式会社  
 22.5×10cm、三つ折り1回二つ折り1回1枚、無料配布、多色22図  
 三館展覧会スケジュール  
 利用案内、地図  
 2010年3月4日発行



### 4 たいせつな風景13号

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
 デザイン：桑畑吉伸  
 制作：コギト  
 21×14.8cm、16ページ、無料配布  
 多色1図、単色7図  
 2010年3月31日発行

図版 岸田劉生《野童女》  
 笑いの共通性(養老孟司)  
 浮世絵の笑いのポーズと  
 明治石版画の子どもの笑い(浅野秀剛)  
 図版 関根正二《女の顔》  
 ライ・レ・ローズのアトリエ(野見山暁治)  
 表紙作品解説 深沢幸雄《黒い土は笑う》  
 (長門佐季)  
 編集雑記



### 5 2008年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館  
 製作：求龍堂  
 25.7×18.2cm、68ページ、無料配布  
 2010年3月31日発行

あいさつ  
 展覧会活動  
 教育普及活動  
 作品蒐集管理活動  
 調査研究活動  
 運営・管理報告

## 2009年度の教育普及活動

太田泰人

葉山館開館とともに出発した普及課の活動も6年目を迎えた。2009年度も、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人々に美術鑑賞を身近なものとし、美術がもたらす精神的な豊かさを日常の生活に結びつけることを目標に、(1)啓発普及事業、(2)地域・学校との連携事業、(3)美術館情報誌等の発行による情報発信事業、を3つの柱として活動を発展させてきた。

啓発普及事業では、展覧会ごとの学芸員によるギャラリートークが恒常的な活動となってきたほか、荘司福展、写真と絵画展、リヴィエール展に際して行った講演会や、長澤英俊展、内藤礼展、松谷武判展におけるアーティスト自身によるパフォーマンスやトークが、多くの観客、聴衆を集めた。また、葉山館、鎌倉館をステージとして開催された「酒井幸菜ダンスパフォーマンス」も、音楽、映像、パフォーマンスなどに広がる現代の多面的な芸術創造を美術館に取り入れる試みとして、今後さらに発展の可能性をもつものであったといえよう。

情報発信事業では、ホームページの運営、美術館情報誌「たいせつな風景」の発行のほか、長年の懸案であった『山口蓬春文庫目録』を公刊できたことが重要である。日本の美術館や博物館において、アーカイブ機能が十分でないことはつとに指摘されていることであるが、当館は早くから美術家、美術関係者のアーカイブ的な資料を貴重な文化遺産として保存活用することをひとつの方針としてきた。葉山館の開館にともないオープンした美術図書館は、このアーカイブの機能も併せ持つ、将来的にもますます重要となる活動である。なかでも日本画家山口蓬春が遺した文庫は、質量ともにもっとも重要なもののひとつであり、その目録が今般、印刷物の形でまとまったことによって、今後の幅広い資料活用に貢献することが期待される。

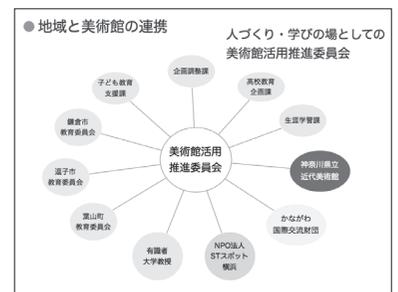
また、夏休みの子どもたち向けの情報発信事業として、本年も「わくわくゆったりセット」を作成した。アーティストの糸崎公朗さんをお願いして「ツギラマ」と呼ばれる写真を使った印刷物(工作をすると鎌倉館の中庭空間が立体的に立ち上がるシートで、建築を考えるきっかけとなる)を準備したほかにワークショップも併せて行っている。

地域・学校との連携は、普及課の事業のなかでも、とくに力を注いできた分野である。その効果もあって、地域や学校による美術館の活用は、団体来館や教員研修、中学生・高校生による職業体験の場としての美術館の利用などさまざまな形で、年々、着実に増えてきている。これは、地道な広報活動や人的なネットワークの形成、アウトリーチツールの開発などが積み重なって獲得してきた結果であるが、とくにその方向での活動で中核的な役割を果たしてきた「美術館活用推進委員会」が、本年度で第1期の活動をひとまず終えることとなった。そこで2007年度に発足したこの活用推進委員会の3年間の活動を振り返ってその理念、概要を確認するとともに、とくに3年目の本年度に数多く実施した委員会によるワークショップの事業について、簡単に報告を行っておきたい。

活用推進委員会は、正式な名称を「〈人づくり・学びの場としての美術館〉活用推進委員会」という。その目的は、美術館の普及的な活動について、美術館スタッフのみならず行政や教育関係者、民間の識者などが横断的に集まって話し合いができる開かれた場を作り、その中で美術館をひろく「人づくり・学び」の環境としてとらえなおして、どのように美術館の「活用」が図れるかを、一緒に考えてみようということであった。

こうした委員会を立ち上げようというきっかけは、葉山開館以来、行政、地域、学校関係に美術館情報をアピールし、積極的な活用を呼びかけてきた経験の中で、相互の理解がいかに不足しているかを強く認識したからであり、また美術館に対して協働・連携を求める強い期待を各方面から耳にしてきたからでもあった。

とくに2006年度には、美術館キット「Museum Box 宝箱」を開発、この年の文部科学省委嘱事業文化体験プログラムの一環として「鑑賞プログラム『謎解き宝箱』」を、逗子市、鎌倉市、葉山町の教育委員会ならびにNPO法人STスポット横浜と連携して実施したことも大きかった。そこで芽生えた連携と協働の可能性をもっと安定した地盤の上で育てていこう



1 美術館活用推進委員会コンセプト



2 委員会での討議の様子

という意思のもとに活用推進委員会の構想は生まれたのである。

こうした経緯もあって委員会への参加を呼びかけたのは、(1)行政関係として県教育委員会の教育政策課(のち企画調整課)、高校教育課(のち高校教育企画課)、子ども教育支援課、生涯学習文化財課(のち生涯学習課)から各1名、(2)地域の教育関係として葉山町教育委員会、逗子市教育委員会、鎌倉市教育委員会から各2名、(3)それに民間の財団、NPO関係者、有識者として、元こどもの城造形事業部長・岩崎清氏、東京大学教授(文化資源学)・木下直之氏、かながわ国際交流財団・小山紳一郎氏、NPO法人STスポット横浜・松尾水樹氏であった。また、美術館側からの委員としては、山梨館長、太田普及課長が参加。そして、岩崎清氏に委員長、木下直之氏に副委員長をお引き受けただいて、2007年度にその活動をスタートさせたのである。

委員会の3年間の議論と活動は、この限られた紙面で語るにはあまりに広範に及んでおり、現在準備している委員会報告のためのウェブサイトをご覧いただきたいが、ごく簡単に整理するなら、まず2007年度から2009年度まで、全10回の「委員会」が開催された。初めは共有の基盤も乏しく手探り状態であったものの、会を重ねるごとにやがて委員相互の理解も生まれ、結果的には充実した議論と意見交換の場となった。そこで育まれた相互の理解とネットワークは今後もしっかりと維持していくべき貴重な財産である。

また委員会の下には、「宝箱ワーキング」「高校ワーキング」というふたつのワーキンググループも形成された。前者は美術館キット「宝箱」を活用した具体的な授業案を学校の先生たちと開発してもらうためのワーキングで、子ども教育支援課の小野委員に格別のご尽力をいただいた。その結果として「宝箱」は『横浜市版学習指導要領』にも掲載されるまでにひろく認知されるものになっている。また「高校ワーキング」は県下の美術工芸の教員によびかけた研究会で高校教育課の甲斐委員を中心にご尽力いただいた。いずれも、今後継続されるべき重要な連携事業となっている。

その他に推進委員会の関連で行なわれた単発の事業としては以下のものがあげられる。

1. 2007年8月26日 レキハク&キンピ みる・きく・はっけんバスツアー(生涯学習文化財課との連携事業)
2. 2007年11月1日 逗子市立久木小学校における『Museum Box 宝箱』出前授業
3. 2009年8月18日 地球市民プラザにおけるE.S.D.教材総合展への『Museum Box 宝箱』出品
4. 2010年3月28日 松谷武判展における高校生向けアーティスト・トーク(高校ワーキングによる)

しかし、3年目の委員会がとりわけ数多くの実践を提起したのは、2009年夏の坂倉準三展に関連してのことであった。それらの企画は委員会から発案され、委員と美術館の協働として次のようなかたちで実現された。

1. 6月28日と8月29日：岩崎清委員の提案によるワークショップ「テグスで考える」
2. 7月11日と8月30日：同じく岩崎清委員の提案によるワークショップ「美術館を撮影する」
3. 7月20日、8月2日、8月9日：木下直之委員の提案によるワークショップ「鎌倉の夏 自由研究」

これら美術館でのワークショップの他に、さらに「美術館=学校・児童保育施設連携プログラム」として、7月15日、7月22日に藤沢市立片瀬小学校に出張してワークショップ「宝箱であそぼう」を実施、また7月28日、29日には逗子市久木小学校でワークショップ「によきよき新聞紙」を行ったのも、活用推進委員会の関連事業である。

また、同時期に鎌倉別館で開催された展覧会「美術館はほくらの宝箱——子どもたちの視点ができるもの」(6月6日～9月6日)も、数年来、横浜国立大学附属鎌倉小学校や県立大清水高校(現県立藤沢清流高校)との連携活動により美術館と親しんできた子どもたちの言葉や映像とともに作品を展示するという展覧会で、同じような対話と協働による活動であった。

このように活用推進委員会は、学校教育、社会教育、行政、民間NPOなどさまざまな立場の人々が集まり、相互の理解にもとづくネットワークを育てながら、そこから生まれてくる美術館の活用に関する意見を自由に語り合い、将来の美術館の発展に資するプラットフォームを社会的に形成していこうというものであった。第1期3年間はその端緒に過ぎず、これからの発展をさらに期するものである。



3 鎌倉の夏 自由研究  
一たてものと暮らし、たてもので暮らし



4 「宝箱であそぼう」藤沢市立片瀬小学校にて

## 作品蒐集管理活動

購入・寄贈状況 2010(平成22)年3月31日現在

2008(平成20)年度末の総点数	10,784点 <sup>*1</sup>
2009(平成21)年度の購入点数	5点
2009(平成21)年度の寄贈点数	634点
2009(平成21)年度の取得総点数	639点
2009(平成21)年度末の収蔵総点数	11,423点

※1 集計上の誤りのため、2008年度の年報から記載点数を訂正しました。

寄託状況 2010(平成22)年3月31日現在

2008(平成20)年度からの更新分	61件	作品点数	227点
2009(平成21)年度中の解除分	1件 <sup>*2</sup>	作品点数	3点
2009(平成21)年度の新規受入分	8件 <sup>*3</sup>	作品点数	16点
2009(平成21)年度合計	67件	作品点数	240点

※2 他に寄託継続作品あり

※3 8件の内2件は既寄託者

### 2009年度 新収蔵作品一覧

【凡例1】寸法について、原則として平面作品は縦×横の順に、立体作品は高さ×幅×奥行の順に記した。単位はcm(センチメートル)である。但し、版画については、イメージ寸法の縦/支持体寸法の縦×イメージ寸法の横/支持体寸法の横の順に「/」で区切って記した。  
 【凡例2】署名年記は、書込みの位置を示して記した。印、落款は[ ]で記した。文字が判別できない場合は□で補い、書込みが無い場合は-で記した。  
 【凡例3】版画が台紙に貼付されている場合、台紙の寸法はイメージの寸法、支持体の寸法の後に/で区切って示した。  
 【凡例4】素描のうち、表・裏両面に描かれている場合、タイトル、寸法、署名は「/」で区切って記した。同画面上に複数点、描かれている場合、「:」で列挙して記した。

### 購入

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記・書き込み等	備考
<b>油彩・アクリル画など</b>						
松谷武判	接点 2009	2009	ビニル系接着剤によるレリーフ、鉛筆、キャンバス	162.0×130.0	右下: Matsutani '09	
<b>彫刻・インスタレーション348</b>						
内藤礼	恩寵	2009	ビーズ、テグス	260.0×550.0×0.2	-	
<b>素描・水彩画など</b>						
長澤英俊	銅のドロウイング	2009	紙、銅、酸	70.0×100.0	-	
<b>神奈川県立近代美術館賞 版画</b>						
谷川直子	あまやどり	2009	シルクスクリーン	113.0×154.0	-	第45回神奈川県美術展
<b>神奈川県立近代美術館賞 油彩・アクリル画など</b>						
鶴見厚子	ON A BOAR	2009	油絵具、アクリル、メデイウム、ニス、パネル	162.0×162.0	左下: ㇿ	第49回神奈川県女流美術家協会展

### 寄贈

〈関合矢恵子氏寄贈〉

\*関合正明の素描・水彩画について、タイトルは書込みに基づく。書き込みがない場合は、[ ]で記す。

素描・水彩画など

関合正明	[チューリップ]	1950年代	鉛筆、オイルパステル、紙	24.2×18.0	右下: 印[せ]	
------	----------	--------	--------------	-----------	----------	--

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
関合正明	[少女の顔(真佐子像)]	1952	鉛筆、紙；台紙貼付	26.3×20.9	左下：1952 印[關]	
関合正明	[牛]	1950年代頃	鉛筆、紙	18.5×24.3	右：印[關]	
関合正明	糸魚川海岸	1969	鉛筆、紙	18.0×24.6	右：昭和四十三年元旦 於糸魚川海岸	
関合正明	プライア サンタ クルス、ポルトガル(1)	1971	鉛筆、紙	22.0×31.2	下：PRAIA SANTA CRUZ-PORtuGAL CEKiAi 1971 2/16	
関合正明	プライア サンタ クルス、ポルトガル(2)	1971	鉛筆、紙	23.6×31.8	下：PRAIA SANTA CRUZ-PORtuGL 1971 2/25 M.SEKIAI	
関合正明	サンタ クルス//セシンプラ	1971	鉛筆、紙	12.1//17.8×17.8//12.1	左下：1971 SANTA CRUZ//下：1971 Sesimbra	
関合正明	セシンプラ	1971	鉛筆、紙	12.1×17.7	右下：SESIMBRA 1971	
関合正明	サンタ クルス郊外	1971	鉛筆、紙	12.1×17.4	左下：1971 SANTA CRNZ	
関合正明	サンタ クルス、トレス・ヴェトラスへの 道標	1971	インク、紙	10.4×12.9	左下：SANTA CRUZ 右下：1971 1/15	
関合正明	サンタ クルス郊外	1971	鉛筆、紙	12.1×17.3	右下：1971 SANTA CRNZ	
関合正明	サンタ クルスの街並//サンタ クルス 頃	1971//1971 頃	鉛筆、紙	12.1×17.4	右下：Santa Cruz 1971//左下：Santa Cruz	
関合正明	[カナダ風景(樹)]	1973	インク、紙	27.5×20.7	-	
関合正明	[カナダ風景]	1973	インク、オイルパステル、 ホワイト、紙	20.8×28	-	
関合正明	[カナダ風景、水辺]	1973	インク、紙	20.4×25.4	-	
関合正明	[船着場と看板、カナダ]	1973	鉛筆、インク、紙	20.3×25.4	-	
関合正明	[樹木]	1973	インク、紙	28.0×20.8	-	
関合正明	[港の風景、カナダ]	1973	インク、紙	28.0×20.9	-	
関合正明	[水辺の風景、カナダ]	1973	インク、紙	20.9×28.0	-	
関合正明	[水辺の建物、カナダ]	1973	インク、紙	20.9×28.0	-	
関合正明	[邑子像]	1976	インク、紙；台紙貼付	14.5×10.0	左下：Sekiai 左上：1976 8/22	
関合正明	[太魯閣渓谷、台湾]//[長春聽濤]	1976	インク、紙；テープ//イ ンク、紙	25.1×17.4	-//-	
関合正明	天祥 吉華飯店庭前にて//[花]//合歓	1976	インク、紙	17.8//17.8,17.8× 25.6//12.8,12.8	左上：天祥 吉華飯店庭 前にて-//合歓の若葉	ノート1枚半を糊づけ
関合正明	[長春聽濤、台湾]	1976	インク、紙	25.8×17.5	-	
関合正明	邑子図、手の習作	1976	鉛筆、紙	27.9×21.6	左上：1976 邑子図 3才 3/5	
関合正明	[長春聽濤]//[太魯閣渓谷、台湾；木]	1976//不詳	インク、紙	18.0×26.0	-//-	
関合正明	[邑子、正面像]	1976頃	鉛筆、紙	26.8×20.8	右下：Sekiai	
関合正明	邑子像	1976頃	インク、紙	25.7×19.0	右下：SATOKO. Sekiai	
関合正明	[防波堤]//[山(部分)]	1970-1980 年代	鉛筆、紙	19.6×18.3	-//-	
関合正明	[教会のある町]//[漁村]	1970-1980 年代	鉛筆、紙	24.3//17.8×17.8//24.3	-//-	
関合正明	[漁村]//[漁村]	1970-1980 年代	鉛筆、紙	18.3//25.8×25.8//18.3	-//-	
関合正明	[防波堤の灯台]	1970-1980 年代	インク、オイルパステル、 水彩、紙	18.2×25.0	-	
関合正明	漁港//入江	1970-1980 年代	鉛筆、紙	18.5×24.6	-//-	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
関合正明	リバマール//建物のある風景、 ポルトガル	1970-71頃	鉛筆、紙	21.5×31.0	左下: Sekiai RIBAMAR//右下: [印]	開
関合正明	[ポルトガル風景]	1970-71頃	鉛筆、紙	21.2×30.1	左下: Sekiai	
関合正明	リバマール風景	1970-71頃	鉛筆、紙	22.1×32.0	右下: Ribamar Sekiai	
関合正明	[風車と教会のある風景、ポルトガル]	1970-71頃	鉛筆、オイルパステル、 紙	24.1×30.2	-	
関合正明	[海の見える風景、ポルトガル]	1970-71頃	鉛筆、紙	24.0×29.2	左下: Sekiai	
関合正明	[ロバのいる風景、ポルトガル]	1970-71頃	鉛筆、紙	23.0×32.0	-	
関合正明	建物、リバマール	1970-71頃	鉛筆、紙	22.3×32.1	右下: Ribamar M.Sekiai	
関合正明	[坂道の建物、ポルトガル]	1970-71頃	鉛筆、紙	23.6×33.3	左下: Sekiai	
関合正明	[ポルトガルの家]	1970-71頃	鉛筆、水彩、紙	22.3×32.0	-	
関合正明	[門のある建物、ポルトガル]	1970-71頃	鉛筆、オイルパステル、 水彩、紙	24.2×33.3		
関合正明	ベシカドニヤ・ノラブ	1970-71頃	インク、水彩、墨、紙	14.9×17.7	上: ベシカドニヤ・ノラブ 図 左下: セ	
関合正明	[建物、ポルトガル]	1970-71頃	鉛筆、紙	12.1×17.8	左下: 3/15	
関合正明	リスボア・ホテル	1970-71頃	鉛筆、紙	12.1×17.8	左上: Lisboa Hotel 下: LISBOA	
関合正明	ポルトガル 追記	1970-71頃	鉛筆、紙	19.0×13.4	上: PORTugal 追記	
関合正明	ポルトガルの海辺//籐	1970-71頃	鉛筆、紙	12.1//17.6×17.6//12.1	-//-	
関合正明	ポルトガルの教会//教会の裏	1970-71頃	鉛筆、紙	12.1×17.6		
関合正明	ドイス・コニヤードス村	1970-71頃	鉛筆、紙	12.1×17.8	右上: ドイス・コニヤード ス村 左下: [印]	
関合正明	サンタ クルスの坂道//サンタ クルスの 廃屋	1971頃// 1971	鉛筆、紙	12.1×17.4	左下: Santa Cruz 坂 道//左下: Santa Cruz 1971	
関合正明	[建物]	1970年代	鉛筆、紙	18.3×26.5	-	
関合正明	[蓮]	1970年代	鉛筆、紙	25.6×19.1	[印]右下: 正	
関合正明	[漁港]	1970年代	鉛筆、紙	17.7×24.6	[印]左下: 正	
関合正明	[桜島]	1970年代	鉛筆、紙	24.6×33.0	左下: Sekiai	
関合正明	[自画像]	1970年代	鉛筆、紙	28.7×19.8	[印]右下: 正	
関合正明	[九十九里の小屋]//[滑車]	1970年代後 半	鉛筆、紙	22.2×17.1	-//-	
関合正明	[入江]//[漁船]	1970年代後 半	鉛筆、紙	18.2×25.0	-//-	
関合正明	[外川風景]	1980年代初 期	鉛筆、紙	15.9×24.1	-	
関合正明	オヴェール	1982	鉛筆、紙; 台紙貼付	20.9×28.7	右下: Sekiai 1982.11 AuVERS	
関合正明	オヴェール//[街路と樹木]	1982// 1981-82	鉛筆、紙	21.6×16.4	左下: AUVERS 右下: 1982.11 Sekiai //-	
関合正明	[オヴェールの教会、塔部分]	1981-82頃	鉛筆、紙	15.6×21.2	-	
関合正明	[オヴェールの教会]//[並木と建物]	1981-82頃	鉛筆、紙	17.0×21.7	-//-	
関合正明	[建物]	1981-82頃	鉛筆、紙	21.2×14.5	-	
関合正明	[坂道の建物と教会、オヴェール]// [街路]	1981-82頃	鉛筆、紙	21.2×16.4	-//-	
関合正明	[街、フランス]	1981-82頃	鉛筆、紙	14.8×21.2	-	
関合正明	[建物と並木、フランス]//[オヴェール、 ノートルダム教会バットレス]	1981-82頃	鉛筆、紙	16.1×21.7	-//-	
関合正明	[風景]	1981-82頃	鉛筆、紙	16.6×21.7	-	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記・書き込み等	備考
関合正明	[建物と樹、フランス] // 建物部分と外灯、イポール	1981-82頃	鉛筆、紙	15.0//21.2×21.2//15.0	-//右上：イポール	
関合正明	[フランス風景]	1981-82頃	鉛筆、紙	15.6×21.2	-	
関合正明	オヴェール駅構内//[オヴェールの教会、塔の習作]	1981-82頃	鉛筆、紙	16.8//21.7×21.7//16.8	左下：オペール駅構内//	
関合正明	[市庁舎]//[ノートル・ダム・ドゥ・ギヤルド教会、オヴェール]	1981-82頃	鉛筆、紙	21.2×15.0	-//	
関合正明	[石段と樹木]//[建物と樹木]	1981-82頃	鉛筆、紙//オイルパステル、鉛筆、紙	21.2//14.7×14.7//21.2	-//	
関合正明	[山間の集落]	1987	鉛筆、紙；台紙貼付	18.4×25.5	左下：1987 2/4	
関合正明	[菖蒲]	1980年代	鉛筆、紙	20.5×17.4	-	
関合正明	[葛原岡]	1980年代	鉛筆、紙	18.0×24.3	-	
関合正明	[枇杷と蝸牛]	1980年代	鉛筆、紙	22.7×20.1	右下：[印]	
関合正明	[トウガラシ(1)]	1990	鉛筆、紙	12.3×17.9	左下：1990 10/15	
関合正明	[トウガラシ(2)]	[1990]	鉛筆、紙	12.4×17.6	右上：[印]	
関合正明	[八ヶ岳風景]	1990	鉛筆、紙	17.2×25.2	左下：1990 Sekiai	
関合正明	[八ヶ岳(赤岳)(1)]	1990	鉛筆、紙	19.3×28.7	右下：1990 Sekiai	
関合正明	[八ヶ岳(赤岳)(2)]	1990	鉛筆、オイルパステル、紙	19.5×28.8	左下：Sekiai 1990 右下：1990 10/27 Sekiai	
関合正明	阿弥陀岳・赤岳	1990頃	鉛筆、紙	18.3×26.2	左：アミダ岳//右上：赤岳	
関合正明	[桜島]	1990	鉛筆、紙	21.2×34.1	右下：Sekiai 1990	
関合正明	[入江]	1990	鉛筆、紙	24.3×35.6	左下：1990 Sekiai	
関合正明	[自画像]	1991	鉛筆、紙	27×22.8	左下：1991 9.1	
関合正明	[青年像]	1991	インク、紙	33.1×23.6	左下：1991 H.3.9.1. Sekiai	
関合正明	[山岳風景]	1990頃	鉛筆、紙	24.7×17.7	-	
関合正明	[八ヶ岳]	1990頃	鉛筆、紙	17.0×25.2	-	
関合正明	[山岳風景]//[牛]	1990頃	鉛筆、紙	26.2//18.3×18.3//26.2	-//	
関合正明	[八ヶ岳]	1990頃	鉛筆、紙	18.2×26.2	右下：Sekiai	
関合正明	[建物と樹木]	不詳	鉛筆、紙；台紙貼付	16.8×23.6	右下：印[關]	
関合正明	[教会]//[樹]	不詳	鉛筆、紙	24.4×18.3	-//	
関合正明	[椿]//浄光明寺	不詳	鉛筆、紙	22.1×17.8	左下：[印]//左：浄光明寺 十月二日 彼岸花	
関合正明	[鱈]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	13.8×25.9	右下：印[關]	
関合正明	[鯉]	不詳	鉛筆、紙	17.6×25.3	-	
関合正明	[鬼百合]	不詳	鉛筆、オイルパステル、水彩、紙	30.7×22.6	-	
関合正明	[紫陽花]	不詳	鉛筆、紙；台紙裏張り	30.3×22.8	-	
関合正明	[鬼百合]	不詳	鉛筆、オイルパステル、水彩、紙	30.3×23.0	右下：印[正]	
関合正明	[芥子]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	22.8×30.8	右下：印[關]	
関合正明	[建物、壁、石畳など]	不詳	鉛筆、紙	28.7×21.9		
関合正明	[椿]	不詳	鉛筆、紙	22.1×18.9	-	
関合正明	[蓮]	不詳	鉛筆、紙	26.1×19.0	左下：印[正]	
関合正明	[港の集落]	不詳	鉛筆、紙	17.2×24.2	-	
関合正明	[椿]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙；一部上張り	21.8×16.2	右中：印[正]	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
関合正明	[カマスの開き]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	15.8×26.0	左下：印[關]	
関合正明	[カマスの開き]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	12.6×24.8	右上：印[關]	
関合正明	南郷町 外浦漁港	不詳	鉛筆、紙	24.2×35.6	左上：南郷町 外浦漁港 左下：Sekiai	
関合正明	[入江]	不詳	鉛筆、紙	23.2×35.6	-	
関合正明	[トビウオの干物]	不詳	インク、墨、オイルパステル、紙	21.1×33.2	左下：セ [印]	
関合正明	[干し魚]	不詳	墨、紙	20.8×33.2	右下：セ	
関合正明	[石狩川と石狩灯台] // [石狩灯台など]	不詳	鉛筆、紙	17.8×24.8	-//-	
関合正明	祖母	不詳	鉛筆、紙	25.2×23.0	左下：祖母八十歳像 関	
関合正明	[祖母の横顔]	不詳	鉛筆、紙	26.3×22.4	右下：関	
関合正明	[木立と家並]	不詳	鉛筆、紙	18.0×25.8	-	
関合正明	[櫓と木立]	不詳	鉛筆、紙	26.3×18.7	-	
関合正明	[建物と木]	不詳	鉛筆、紙	18.0×25.3	-	
関合正明	[菖蒲]	不詳	鉛筆、紙	22.9×17.8	右下：[印]	
関合正明	[山と家並]	不詳	鉛筆、紙	18.2×25.6	-	
関合正明	[三差路]	不詳	鉛筆、紙	18.5×26.0	-	
関合正明	[菊]	不詳	鉛筆、紙	27.3×19.8	左下：印[關]	
関合正明	[眠る猫]	不詳	鉛筆、紙	17.0×23.8	右上：[印]	
関合正明	[眠る猫]	不詳	鉛筆、紙	16.5×24.0	右上：印[關]	
関合正明	[犬]	不詳	鉛筆、紙	16.7×24.8	-	
関合正明	[瓶と青りんご]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	24.8×27.5	左下：印[關]	
関合正明	[チューリップ]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	16.8×10.4	左下：セ	
関合正明	[自画像]	不詳	鉛筆、紙	26.7×19.4	左下：印[正]	
関合正明	[青年像]	不詳	インク、紙	33.1×23.6	-	
関合正明	[無花果]	不詳	鉛筆、紙	21.9×39.6	-	
関合正明	[ピーマンとサツマイモ]	不詳	鉛筆、オイルパステル、水彩、紙	20.2×29.7	右下：印[關]	
関合正明	[牛]	不詳	鉛筆、紙	18.1×25.5	右：[印]	
関合正明	[葱坊主]	不詳	鉛筆、紙	19.8×13.7	左下：セ	
関合正明	[ピーマンと瓜]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	15.6×22.8	左下：印[關]	
関合正明	[家]	不詳	インク、紙：台紙貼付	12.1×11.9	右下：Sekiai	
関合正明	[資材置き場]	不詳	鉛筆、紙	24.9×32.4	-	
関合正明	[資材置き場と電柱]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	23.2×33.9	-	
関合正明	[資材置き場]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	24.9×33.9	左下：印[關]	
関合正明	砂丘	不詳	鉛筆、紙	16.9×25.6	左下：砂丘	
関合正明	[入江の風景] // [流木]	不詳	鉛筆、紙	18.0×24.2	-//-	
関合正明	[海辺]	不詳	鉛筆、紙	24.2×17.8	-	
関合正明	[植木鉢のある家]	不詳	鉛筆、紙	21.0×28.5	-	
関合正明	[植木鉢のある家]	不詳	鉛筆、紙	21.0×28.5	-	
関合正明	フランス万歳	不詳	墨、紙	18.1×13.7	-	
関合正明	少年のスパイ	不詳	墨、紙	18.8×14.8	右上：少年のスパイ	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
関合正明	午後の授業	不詳	墨、紙	19.4×14.8	右上：午後の授業①	
関合正明	[漁村風景]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	19.1×31.2	左下：印[関]	
関合正明	[漁村風景]	不詳	鉛筆、オイルパステル、水彩、紙	18.0×33.3	左下：印[関]	
関合正明	[漁村風景]	不詳	鉛筆、墨、オイルパステル、紙	17.5×34.4	左下：印[関]	
関合正明	[風景]	不詳	鉛筆、オイルパステル、紙	20.4×33.0	左下：印[関]	
関合正明	[風景]//[井戸]	不詳//1970-71	鉛筆、紙	21.0×28.5	--//左上：Peniche港 右上：マドリードの駅 ATOCHA駅 右：印[関]	
関合正明	[漁村]//[漁村]	不詳	鉛筆、紙	25.0×18.1	--/--	
関合正明	[入江]//[浜辺]	不詳	インク、紙	18.1×25.4	--/--	
関合正明	[漁村]//[灯台]	不詳	鉛筆、紙	17.5×25.0	--/--	
関合正明	[櫓のある風景]	不詳	鉛筆、紙	24.2×18.4	-	
関合正明	『青い雲』挿絵原画(111点)	1969-70	鉛筆、墨、オイルパステル、紙など	14.2～19.0×12.0～27.0		読売新聞連載小説(1969年-1970年)、植一雄『青い雲』挿絵のための原画

#### 書籍・スケッチブック

関合正明	『スケッチブック(日本橋の他)』	1970年代	鉛筆、紙	26.8×19.0×0.9		素描3点、挟み込み1葉に素描2点あり
関合正明	『スケッチブック(ホルトガル)』	1971-72頃	鉛筆、紙	21.1×31.0×1.2		素描10点あり
関合正明	『スケッチブック(フランス)』	1981-82頃	鉛筆、紙、インクなど	21.8×16.6	-	素描5点あり
関合正明	『スケッチブック(フランス)』	1981-82頃	鉛筆、紙	21.8×16.6	-	素描8点、挟み込み3葉に素描5点あり
関合正明	『覚書・スケッチブック(フランス)』	1981-82頃	インク、鉛筆、紙など	21.2×15.6	表紙：M.Sekiai	素描13点あり
関合正明	『スケッチブック(日本橋)』	不詳	鉛筆、紙、インクなど	17.0×25×1.2	-	素描8点あり
関合正明	『スケッチブック(日本橋)』	不詳	鉛筆、紙、インクなど	12.2×17.8	-	素描7点あり
関合正明	『スケッチブック(八ツ嶽素描)』	不詳	鉛筆、紙	33.7×26.0	表紙：八ツ嶽素描	素描13点あり
関合正明	『スケッチブック(葱坊主)』	不詳	鉛筆、紙	33.3×25.6×1.2	-	素描6点あり

#### 〈保田春彦氏寄贈〉

\*保田春彦、シリーズ『裸婦クロッキー』全209点について、本一覽では以下のように記す。  
制作年：作品に記された年記に従い、2007年、2007-2008年、2008年に分け、各時期に制作された点数を記す。  
寸法：作品は35.7×27.0あるいは51.6×36.6。台紙(71.0×50.0)に1枚あるいは2枚ずつ、貼りつけ。  
技法・材質：紙に色鉛筆、インク、水彩、木炭など。  
署名年記：大部分の作品には、スタンプ印[H.Y.]、署名、制作年、制作場所などが記されている。

#### 素描・水彩画など

保田春彦	裸婦クロッキー (93点)	2007	-	-	-	
保田春彦	裸婦クロッキー (6点)	2007-2008	-	-	-	
保田春彦	裸婦クロッキー (110点)	2008	-	-	-	

#### 〈山下昌子氏寄贈〉

#### 油彩・アクリル画など

山下菊二	射角キャンペーン5月20日	1960	油彩、カンヴァス	59.8×79.8	右下：kiku z i y a -	
山下菊二	チリ○○○	1975	油彩、カンヴァス	163.5×226.0	左下：Yam.	
山下菊二	水を斬る	1976	油彩、カンヴァス	118.0×82.3	右下：kikuji.ya- -76	
山下菊二	空を斬る	1976	油彩、カンヴァス	99.0×131.5	左下：kikuji.ya- -76	
山下菊二	マチガイ	1976	油彩、カンヴァス	146.5×98.5	左下：kikuji.ya- -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 狭山にさしかかったマクシミリアン一世の凱旋	1976	油彩、コラージュ、パネルに紙	242.7×233.8×2.7	-	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
山下菊二	わたしの知らないMの母	1976	油彩、カンヴァス	40.5×32.1	右下：kikuji.ya-76	
山下菊二	誤字と当字	1976	油彩、カンヴァス	182.0×227.5	-	
山下菊二	わたしたち	1976	油彩、カンヴァス	32.1×41.1	右下：Kikuji.ya-76	

#### 水彩・素描画など

山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.1	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.2	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.3	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.4	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.5	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.6	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.7	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	中下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.8	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.9	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.11	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.12	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	-	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.13	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.14	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.15	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.16	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.17	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.18	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.21	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.22	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.23	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.25	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右：菊	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.29	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.30	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.32	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.33	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	右下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.34	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.35	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.36	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	左下：菊 -76	
山下菊二	戦争と狭山差別裁判 No.37	1976	紙、コラージュ	72.8×51.8	下：菊 -76	
山下菊二	帰ってきた兵隊	1970	紙、コラージュ	53.3×77.6	右下：-70 Y 右上：菊	
山下菊二	木島始 詩集『予兆』表紙原画	1970頃	コンテ、紙	15.3×10.1	中下：Y	

#### 版画

山下菊二	機関車松川事件	1959	リトグラフ、紙	59.1×46.6	左下：8/10 右下：-59、K.Yamashita	
山下菊二	版画集『沼の妖鳥たち』表紙	1963	リトグラフ、紙	28.3/33.6×19.6/26.8	左下：1/100	
山下菊二	版画集『沼の妖鳥たち』I	1963	リトグラフ、紙	31.8×23.8	左下：1/100 H.Kijima 右下：Kikuji, Ya-	
山下菊二	版画集『沼の妖鳥たち』II	1963	リトグラフ、紙	32.1×23.3	左下：1/100 H.Kijima 右下：Kikuji, Ya-	
山下菊二	版画集『沼の妖鳥たち』III	1963	リトグラフ、紙	32.0×23.6	左下：1/100 H.Kijima 右下：Kikuji, Ya-	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
山下菊二	版画集「沼の妖鳥たち」Ⅳ	1963	リトグラフ、紙	31.8×23.9	左下：1/100 H.Kijima 右下：Kikuji, Ya-	
山下菊二	版画集「沼の妖鳥たち」Ⅴ	1963	リトグラフ、紙	31.9×23.4	左下：1/100 H.Kijima 右下：Kikuji, Ya-	
山下菊二	弾圧する権力	1967	リトグラフ、紙	39.0×51.5	左下：1/30 弾圧する権力 右下：1967 Kikuji. Yamashita	

#### 〈荘司準氏寄贈〉

日本画						
荘司福	憩	1951	顔料、紙	172.5×96.0	-	
荘司福	帰漁	1958	顔料、紙	178.2/179.8×224.7/226.0	-	
荘司福	群	1961	顔料、紙	166.0×213.0	-	
荘司福	冬の音	1980	顔料、紙	90.7×116.8	-	
荘司福	樹象	1980	顔料、紙	90.3×116.3	-	
荘司福	石	1980	顔料、紙	97.0×130.5	-	
素描・水彩画など						
荘司福	御坂山塊の秋	1959	水彩、紙	17.3×49.3	-	
荘司福	イタコ(恐山)	1964	コンテ、紙	25.6×18.3	-	
荘司福	舞台裏にて(旅一座の二人)	1963	パステル、コンテ、紙	34.7, 34.7×24.9; 24.9	右・左下：舞台裏にて	2点1組
荘司福	炎	1965	コンテ、紙	35.1×24.5	-	
荘司福	サンチー第一塔	1969	水彩、鉛筆、紙	23.8×32.0	-	
荘司福	菩薩壁画(フォンドキスタン出土)	1972	鉛筆、色鉛筆、紙	35.0×23.8		
荘司福	ナイル西岸(ルクソール)	1973	水彩、鉛筆、紙	24.9×35.0	下：ナイル西岸王陵の冬のある岩山(ルクソール)東岸より	
荘司福	破損仏-東楽寺-2	1973	水彩、鉛筆、紙	37.8×27.2	左下：11.14. 東楽寺にて	
荘司福	栗とかまきり	1976	水彩、鉛筆、紙	35.2×48.9	左下：10.16. 右上：51.10.18日朝 あざみの露	
荘司福	《女》の岩場(東尋坊)	1977	鉛筆、紙	35.5×49.5	右上：東尋坊の壁 53.4.11.	
荘司福	吉野川の石	1977	鉛筆、紙	21.3×27.6	右下：吉野川の石 7月27日	
荘司福	白杵の石仏	1978	パステル、鉛筆、紙	35.0×25.2	右下：白杵石仏 1、10、	
荘司福	ゴビ	1980	水彩、鉛筆、紙	24.2×33.2	右下：6/16	
荘司福	櫻-1(吉野)	1981	パステル、鉛筆、紙	29.8×57.1	-	
荘司福	櫻-2	1981	パステル、鉛筆、紙	22.0×39.2	-	
荘司福	土(阿蘇)	1982	コンテ、紙	27.9×43.3	-	
荘司福	土	1982	コンテ、紙	23.2×32.8	-	
荘司福	落ち椿	1982	水彩、鉛筆、紙	33.1×46.8	右下：落ち椿、4月15日	
荘司福	湿原	1983	水彩、紙	34.8×55.5	右下：銅路湿原 58.5.4.	
荘司福	こぶし咲く林(支笏湖付近)	1983	水彩、鉛筆、紙	35.1×49.2	-	
荘司福	塘路湖	1984	水彩、鉛筆、紙	34.8×49.3	右下：59.5.1. 向島の居る塘路湖	
荘司福	水芭蕉(呼人沢)	1984	水彩、鉛筆、紙	33.2×47.3	下：呼人沢 59、5、4、	
荘司福	石4ヶ(《刻》の習作)	1985	鉛筆、紙	55.8×67.8	-	
荘司福	川辺川の石	1989	鉛筆、紙	33.3×49.0		
荘司福	東大寺講堂礎石	1989	鉛筆、紙	17.8×25.1	右下：東大寺講堂礎石 11月11日	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記・書き込み等	備考
〈西村清子氏寄贈〉						
版画						
小林清親	愛宕山之図	1978	多色木版、紙	21.7/24.7×33.3/36.3	画面外右下：小林清親画 [版刻]；画面外左下：御 届明治十一年・十月三日	
小林清親	两国火花之図	1880	多色木版、紙	20.6/24.6×31.9/36.2	画面外左辺下：御届明治 十三年 日 小林清親 [版刻]	
小林清親	大川富士見渡	1880	多色木版、紙	20.2/25.0×31.9/36.5	画面内左中央：小林清親 画[版刻]；画面外右辺下： 御届明治十三年 画工小 林清親[版刻]	
小林清親	於土城子 大尉浅川氏之苦戦	1895	多色木版、紙	左：35.7/36.8/45.5； 中央：35.7/37.1/45.5； 右：35.8/37.0/45.5 ×左：23.8/24.9/100.0； 中央：23.8/24.9/100.0； 右：23.7/24.9/100.0	左・画面外左辺下：明治 廿八年一月 右・画面内 右下：清親[版刻]清[印]	版画3枚を台紙に添付
小林清親	講和使節李鴻章談判之図	1895	多色木版、紙	35.3/45.8×70.0/：85.0	画面内左下：明治廿八年 月日；画面内右下：清親[版 刻]清親[印]	
小林清親	威海衛上陸進軍之図	1895	多色木版、紙	左：35.8/37.4； 中央：35.8/37.5； 右：35.7/37.4 ×左：24.0/25.1； 中央：23.9/25.0； 右：24.0/25.0	左・画面外左下：明治廿 八年 月 日印刷；右・ 画面内右下：清親[版刻] 清親[印]	版画3枚組
小林清親	陸海軍人 高名鑑 富岡中佐	1895	多色木版、紙	32.8/37.2×22.2/25.3	画面内右下：清親[版刻] 清親[印]；画面外左辺下： 明治廿八年二月 日	台紙に添付 発行者：井上吉次郎
小林清親	陸海軍人 高名鑑 陸軍少将大寺安純君	1895	多色木版、紙	32.6/35.6/48.4× 21.8/24.0/33.4	画面内左下：清親[版刻] 小林[印]清[印]；画 面外左辺下：明治廿八年 五月 日	台紙に添付
小林清親	陸海軍人 高名鑑 安満少佐・今田少佐	1895	多色木版、紙	32.8/35.4/47.7× 21.9/23.8/32.8	画面内右下：清親[版刻] 清[印]；画面外左下：明 治廿八年二月 日	台紙に添付
小林清親	我軍占領栄城湾上陸之図	[1895]	多色木版、紙	左：35.7/39.9； 中央：35.8/39.9； 右：35.6/39.9 ×左：23.3/85.7； 中央：22.2/85.7； 右：23.3/85.7	画面内右下：清親[版刻] 小林清親[印]	版画3枚を台紙に添付
小林清親	冒営口嚴寒我軍張露営之図	[1895]	多色木版、紙	左：35.7/39.8； 中央：35.8/39.8； 右：35.8/39.8 ×左：23.0/85.7； 中央：23.2/85.7； 右：23.3/85.7	左・画面内左下：清親[版 刻]清親[印]	版画3枚を台紙に添付
小林清親	陸海軍人 高名鑑 比志島大佐澎湖島占領之図	1896	多色木版、紙	32.7/35.5/44.6× 22.0/24.6/31.6	画面内右：清親[版刻]水 青[印]；画面外左辺下： 明治廿九年五月一日	台紙に添付
小林清親	陸海軍人 高名鑑 陸軍中将桂太郎君	1895-96頃	多色木版、紙	32.2/35.5/44.7× 22.2/23.8/31.4	画面内右下：清親[版刻] 清親[印]	台紙に添付
田口米作	第一軍之斥候摩天嶺探検之図	1894	多色木版、紙	36.0/37.4×71.6/72.6	画面内左下：□□□□□ □米作製[版刻]画面外 左辺下：明治廿七年十二 月 日	版画3枚組
〈和田弥生氏寄贈〉						
素描・水彩画など						
和田守弘	青い走査線上のノイズ(点から平面へ)	1977	パステル、紙	54.5×80.0	右下：〈青い色をした走 査線上のノイズ(点から平 面へ)〉	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(Cm)	署名年記・書き込み等	備考
和田守弘	Work '81	1981	水彩、鉛筆、金属(銅)粉、紙	72.4×100.7	下：「9月17日 3階の仕事場からブルを撮る」work performance '81 M. Wada	
和田守弘	'82表基シリーズより	1982	水彩、金属(銅)粉、紙	56.3×76.0	右下：'82 表基シリーズより M. Wada	
和田守弘	'82表基シリーズより	1982	水彩、金属(銅)粉、紙	56.5×76.2	右下：'82 表基シリーズより M. Wada	
和田守弘	ブランデッサン '83	1983	木炭、水彩、紙	65.2×49.9	右下：Plan デッサン'83 M. Wada	
和田守弘	表基ブランデッサン '83	1983	水彩、鉛筆、木炭、金属(銅、真鍮)粉、紙	65.4×49.9	右下：Plan デッサン'83 M. Wada	
和田守弘	表基シリーズブランデッサン	1983	水彩、鉛筆、木炭、金属(真鍮)粉、紙	65.1×50.1	上：平面作品 ブランデッサン '83 素材 黄銅使用をベースに展開 右下：表基ブランデッサン '83 M. Wada	
和田守弘	Work '84-11-24	1984	水彩、金属粉、紙	76.2×56.3	右下：Work '84-11-24 M. Wada	
和田守弘	Work '86-9-16	1986	水彩、紙	56.5×76.2	右下：Work '86-9-16 M. Wada	
和田守弘	Work '87-1-22	1987	岩絵具、水彩、紙	75.7×56.5	-	
和田守弘	Work '87-7-28	1987	岩絵具、水彩、紙	57.0×76.5	右下：Work '87-7-28 M. Wada	
和田守弘	Work '88-3-10	1988	水彩、パステル、紙	56.5×76.2	右下：Work '88-3-10 M. Wada	
和田守弘	89-7-1 表基体'89 探究ブランデッサン	1989	水彩、パステル、紙	56.6×76.0	左下：表基体'89 探究ブランデッサン '89-7-1 M. Wada	
和田守弘	無題	1989	水彩、パステル、紙	75.9×56.5	-	
和田守弘	Work '90-2-10	1990	岩絵具、金属(銅、真鍮)粉、紙	56.2×76.5	左下：Work '90-2-10 M. Wada	
和田守弘	Work '90-5-15	1990	岩絵具、水彩、金属粉(シルバー)、紙	76.5×56.2	-	
和田守弘	Work '96-2-28	1996	水彩、パステル、紙	56.5×76.2	右下：Work '96-2-28 M. Wada	
和田守弘	Work '96	1996	水彩、パステル、金属(銅、真鍮)粉、紙	56.5×76.0	右下：Work '96 M. Wada	
和田守弘	Work '96	1996	水彩、金属(真鍮)粉、紙	76.2×56.5	右下：Work '96 M. Wada	
和田守弘	Work '96	1996	岩絵具、金属(銅、真鍮、シルバー)粉、紙	76.0×56.5	-	
和田守弘	Work '96	1996	岩絵具、金属(銅)粉、紙	56.5×76.6	右下：Work '96 M. Wada	
和田守弘	無題	1996	岩絵具、金属(銅)粉、紙	76.2×56.2	-	
和田守弘	無題	1983頃	木炭、水彩、紙	65.5×49.8	-	
和田守弘	Work	1988頃	岩絵具、水彩、金属(銅)粉、紙	56.5×76.1	左下：Wada Morihiro	
和田守弘	無題	1991頃	岩絵具、水彩、紙	76.5×56.3	-	
和田守弘	無題	1995-96	岩絵具、水彩、金属粉(シルバー)、紙	56.5×76.2	-	
和田守弘	無題	不詳	岩絵具、水彩、紙	66.0×102.3	-	
和田守弘	無題	不詳	岩絵具、水彩、紙	64.3×102.3	-	
<b>油彩画・アクリル画など</b>						
和田守弘	自然に於ける黙示録 No.VII	1971	セメント、銅、石膏、ペンキ、海水、鉄ほか	180.0×119.0	-	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記・書き込み等	備考
<b>彫刻・インスタレーション</b>						
和田守弘	表基体`87-2	1987	エッチング、銅、真鍮、岩絵具、エナメル、アクリル絵具ほか	200.0×90.0×30.0	-	
<b>〈麻生美智子氏寄贈〉</b>						
<b>写真・印刷物</b>						
-	「松本竣介・麻生三郎・舟越保武展」(1946年11月1-4日、日動画廊) 目録	1946	紙、インク	26.2×18.5		両面に印刷あり
<b>素描・水彩画など</b>						
松本竣介・麻生三郎	「松本竣介・麻生三郎・舟越保武展」リーフレットのための装屋広告原画	1946	インク、レタリング、ホワイト、紙	13.8×19.3		台紙に編集指示書2枚を貼りつけ
-	書簡原稿(松本竣介差出、麻生三郎宛書簡)	1946	インク、紙	25.0×35.0	1946年1月8日	原稿用紙2枚
-	書簡原稿(松本竣介差出、麻生三郎宛書簡)	1946	インク、紙	25.0×35.0	1946年1月20日	原稿用紙3枚
<b>〈伊藤進氏寄贈〉</b>						
<b>版画</b>						
梅原龍三郎	ヴィーナスの誕生	1976	エッチング、紙	13.8/30.8×17.8/44.2	中：128/175 R.Umeh	
岡鹿之助	粉ひき場	1974	リトグラフ、紙	28.5/47.9×20.4/33.0	右下：oka	
清水敦	野りんご	1983	メゾチント、紙	16.4/27.0×27.9/38.0	左下：37/75 右下：A.Shimizu	
清水敦	エゾキスゲ	1985	メゾチント、紙	8.5/22.8×22.4/31.5	左下：49/120 右下：A.Shimizu	
長谷川潔	チューリップと三蝶	1960	メゾチント、紙	35.8/51.0×26.3/37.5	画面下：46/60 左下：“Tulip et trois papillons” (manière noire) 1961 右下：エンボス[KIYOSHI HASEGAWA]	
<b>その他(書籍)</b>						
	京都国立近代美術館監修『長谷川潔版画作品集』	1981		-		美術出版社
<b>〈北川原京子氏寄贈〉</b>						
<b>油彩・アクリル画など</b>						
香月泰男	牛	1962	油絵具、ボード	18.8×13.8	左下：y.kazuki	
小山敏三	紅浅間	1970年代	油絵具、カンヴァス	39.8×30.8	左下：敏三	
ジョルジュ・ルオー	踊り子たち	1930年代	ラヴィ、グアッシュ	35.5×20.8	-	
三岸節子	花	1987	油絵具、カンヴァス	72.3×58.8	右下：S.Migishi	
<b>工芸</b>						
パブロ・ピカソ	簾	1969	陶器	24.0×24.0×28.5	下：91.1.69 底面：EDITION PICASSO 231/350 MADOURA R139	
<b>〈小牧英隆氏寄贈〉</b>						
<b>素描・水彩画など</b>						
山口長男	洋ナシ、リンゴ、ブドウ	1950年代	墨、水彩、色紙	27.0×24.0	右上：長男 [印]	
山口長男	リンゴ、ブドウ	1950年代	墨、水彩、色紙	27.0×24.0	右上：長男 [印]	
山口長男	花	1950年代	墨、水彩、色紙	27.0×24.0	右上：長男 [印]	
山口長男	花	1950年代	墨、色紙	27.0×24.0	右上：長男 [印]	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	署名年記・書き込み等	備考
<b>油彩画・アクリル画など</b>						
山口長男	かたち	1951	油絵具、カンヴァス	163.0×172.0	-	

〈青木茂氏寄贈〉

版画

永瀬義郎	裸女	1927-28頃	木版、紙	32.2/33.7×24.2/25.9	右上：Y. Nagase	
永瀬義郎	沈鐘	1922頃	木版、紙	33.0/33.7×23.2/25.6	右上：Y. Nagase	

〈伊村多賀子氏寄贈〉

日本画

近藤浩一路	春雨	1946頃	墨、紙	44.1×50.2	画面内左：於土筆学童／ 浩一路写 [印]	
-------	----	-------	-----	-----------	-------------------------	--

〈栗田政裕氏寄贈〉

版画

栗田政裕	「イマジオ&ポエティカ」33号	2010	木口木版、紙	11.8/22.0; 9.8/14.5/22.0× 9.3/18.0; 6.9/11.9/18.0	中下：36/99 mas.kurita (2点とも)	2点木口木版あり。《真 夜中の夕べ》；《無題》 制作：ボックスウッドク リエーション 刊行： イマジオ&ポエティカ
------	-----------------	------	--------	--	-------------------------------	---

〈村上美智子氏寄贈〉

油彩画・アクリル画など

村上善男	津軽圏赤倉山系大石神社周辺釘打圖	1995-1996	和紙、布、糸、アクリ ル、カンヴァス	227.4×182.0	左下：一九九五年十一月 ～一九九六年七月 Yoshio Murakami 7.1976	
------	------------------	-----------	-----------------------	-------------	--	--

## 館外貸出作品一覧

開催初日が2009年4月から2010年3月までの展覧会に限る

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
1	1	片岡球子《面構 上杉謙信と直江山城守》	「女流作家巨匠展」奥田元宋・小由女美術館(4月24日-5月24日)
	2	片岡球子《面構 歌川国芳》	
	3	片岡球子《面構 山崎辨栄上人・狛則承陵王楽人》	
2	4	岸田劉生《近藤医学博士之像》	「没後80年 岸田劉生 肖像画をこえて」損保ジャパン東郷青児美術館(4月25日-7月5日)
	5	岸田劉生《人物(古屋氏像)》	
	6	岸田劉生《村娘》	
	7	寄託作品(油彩)	
3	8	麻生三郎《死者》	「美連協25周年記念 日本の美術館名品展」東京都美術館(4月25日-7月5日)
	9	片岡球子《面構 等持院殿》	
	10	片岡球子《面構 徳川家康公》	
	11	堀内正和《D氏の骨ぬきサイコロ》	
	12	松本竣介《橋(東京駅裏)》	
	13	若林奮《残り元素 I》	
4	14	土方久功《細い顔》	「躍動する魂のきらめき—日本の表現主義」栃木県立美術館(4月26日-6月15日)、兵庫県立美術館(6月23日-8月16日)、名古屋市美術館(8月22日-10月12日)、岩手県立美術館(10月20日-11月29日)、松戸市立博物館(12月8日-2010年1月24日)
	15	堀進二《壺を抱く女》	
	16	フランツ・マルク《馬の誕生》	
	17	フランツ・マルク《トカゲ》	
	18	フランツ・マルク《水を飲む馬》	
	19	宗像久敬サイン帳	
	20	村山知義《父親の像》	
	21	寄託作品(油彩)	
	22~25	図書資料(仲田文庫) 4点: <i>Der Blaue Reiter</i> , 1914; Herwarth Walden, <i>Einblick in Kunst</i> , 1924; <i>Jahrbuch der Jungen Kunst 1921</i> ; <i>Jahrbuch der Jungen Kunst 1922</i>	
	26	山本正道《ポートレート》	
6	27	松本竣介《自画像》	「4つの物語 コレクションと日本近代美術」川村記念美術館(6月27日-9月23日)
	28	松本竣介《北村氏肖像》	
	29	山下新太郎《百合子像》	
	30	吉原治良《作品》	
7	31	麻生三郎《女》	「武蔵野美術大学80周年記念展 絵の力—絵の具の魔術—」武蔵野美術大学美術資料図書館(7月8日-8月15日)
8	32	アンリ・マティス《『ジャズ』 15 ナイフ投げ》	「アフリカ的美展—ピカソ、モディリアーニたちを魅了した造形—」MOA美術館(7月11日-9月8日)
9	33	ピート・モンドリアン《コンポジション》	「オランダデザイン展—挑発する色とかたち—」佐倉市立美術館(8月1日-9月23日)
10	34	上野誠《秋》	「上野誠の世界」島田市博物館分館 海野光弘版画記念館(8月1日-9月27日)
	35	上野誠《上野不忍の池》	
	36	上野誠《魚板 A》	
	37	上野誠《牛市(薩摩・指宿)》	
	38	上野誠《海を越える鳩》	
	39	上野誠《越後の肥曳き》	
	40	上野誠《越後の風景》	
	41	上野誠《沖縄風景》	
	42	上野誠《ケロイド症者の原水爆戦防止の訴え》	
	43	上野誠《肥はこび》	
	44	上野誠《自画像》	
	45	上野誠《小憩》	

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
	46	上野誠《器中見舞い(蜂とうさぎ)》	
	47	上野誠《鮭の頭》	
	48	上野誠《炭焼き風景》	
	49	上野誠《第五福竜丸》	
	50	上野誠《焚》	
	51	上野誠《長崎のカサ》	
	52	上野誠《沼》	
	53	上野誠《鳩 C》	
	54	上野誠《母と子 B》	
	55	上野誠《母の死》	
	56	上野誠《畑でおっばい》	
	57	上野誠《波止場》	
	58	上野誠《晩秋》	
	59	上野誠《広島の下》	
	60	上野誠《埠頭》	
	61	上野誠《巻上機 2》	
	62	上野誠《物売りの女たち》	
	63	上野誠《溶鉱炉 A》	
11	64	俵屋宗達《狗子図》	「琳派に魅せられたモダニスト—山口蓬春コレクションを中心に—」山口蓬春記念館(8月13日-10月4日)
12	65	松本陽子《思考回路 1》	「光 松本陽子/野口里佳」国立新美術館(8月19日-10月19日)
	66	松本陽子《私的光景》	
13	67	里見勝蔵《女》	「日本近代洋画と三岸好太郎 Part1」北海道立三岸好太郎美術館(9月12日-10月25日)
14	68	牛田雛村《はこねの山》	「日本画創造の苦悩と歓喜 大正期、再興院展の輝き」滋賀県立近代美術館(9月12日-10月25日)、栃木県立美術館(11月1日-12月13日)
	69	小山大月《古驛新春》	
15	70	李禹煥《関係項—サイレンス》	「道教の美術 TAOISM ART」大阪市立美術館(9月15日-10月25日)
16	71	橋本雅邦《深山秋色図》	「横浜開港150周年記念 横浜美術館開館20周年記念 大・開港展—徳川将軍と幕末明治の美術」横浜美術館(9月19日-11月23日)
17	72	中村哲《これ大学であるか》	「中村哲回顧展」東京銀座画廊(9月29日-10月4日)
	73	中村哲《不忍池》	
	74	中村哲《スペインの闘牛士》	
	75	中村哲《ロンドン パデントン停車場》	
18	76	莊司福《映》	「刻を超えて 秋野不矩・莊司福—輝きの女性画家二人展」浜松市秋野不矩美術館(10月3日-11月8日)
	77	莊司福《虚》	
	78	莊司福《櫻》	
	79	莊司福《山雲》	
	80	莊司福《山響》	
	81	莊司福《千手千眼》	
	82	莊司福《刻》	
	83	莊司福《黎明》	
19	84	小野忠重《ガス工場》	「生誕100年 小野忠重展—昭和の白画像—」町田市立国際版画美術館(10月3日-11月23日)
	85	小野忠重《狐市街》	
	86	小野忠重《銀行強盗》	
	87	小野忠重《工場区の人々》	
	88	小野忠重《蘚苔》	
	89	小野忠重《街の子(街角)》	
20	90	多田美波《Phace-Space 6943》	「多田美波展—光を集める人—」箱根彫刻の森美術館(10月3日-12月6日)
21	91	加藤栄三《石庭》	「山口蓬春と加藤栄三—葉山に育まれた友情—」山口蓬春記念館(10月10日-12月23日)
22	92	鳥海青児《漢口》	「近代の東アジアイメージ 日本近代美術はどうアジアを描いてきたか」豊田市美術館(10月10日-12月27日)
	93	鳥海青児《塹壕のある風景》	
23	94	アルベルト・ジャコメッティ《裸婦小立像》	「眼をとして—見ること—の現在」茨城県近代美術館(10月31日-12月13日)
24	95	安井曾太郎《家族》	「安井曾太郎の肖像画」プリヂェストン美術館(10月31日-2010年1月17日)

件数	点数	作家名(作品名)	【展覧会名】会場(会期)
25	96	鎗木清方《お夏清十郎物語(第1図)》	「清方 ノスタルジア—名品でたどる 鎗木清方の美の世界—」サントリー美術館(11月18日-2010年1月11日)
	97	鎗木清方《お夏清十郎物語(第2図)》	
	98	鎗木清方《お夏清十郎物語(第3図)》	
	99	鎗木清方《お夏清十郎物語(第4図)》	
	100	鎗木清方《お夏清十郎物語(第5図)》	
	101	鎗木清方《お夏清十郎物語(第6図)》	
26	102	村山槐多《静物(壺)》	「没後90年 村山槐多 ガランスの悦楽」渋谷区立松濤美術館(12月1日-2010年1月24日)
	103	村山槐多《風船をつく女》	
27	104	麻生三郎《子供》	「柿手春三と池袋モンパルナスの作家たち」奥田元宋・小由女美術館(12月11日-2010年1月17日)
	105	麻生三郎《自画像》	
	106	里見勝蔵《花のある静物》	
	107	里見勝蔵《裸婦》	
	108	福沢一郎《よき料理人》	
28	109	伊庭靖子《untitled》	「未来を担う美術家たち DOMANI-明日展2009」国立新美術館(12月12日-2010年1月24日)
	110	伊庭靖子《untitled》	
29	111	辻晋堂《迷盲》	「A★MUSE★LAND☆TOMORROW 2010 ARCHAIC FANTASY 土+炎=? ~古代を夢見るやきものアート~」北海道立近代美術館(12月20日-2010年2月11日)
30	112	奥谷博《ペランダのモンスター》	「ワンダーシニア30」横須賀美術館(2010年2月13日-4月11日)
31	113	澤田哲郎《コサックダンス》	「生誕90年 澤田哲郎展」盛岡市民文化ホール・展示ホール(2010年3月12日-22日)
	114	澤田哲郎《乞食》	
	115	澤田哲郎《シベリヤの密葬》	
	116	澤田哲郎《ピッコのドモリ》	
32	117	上村松篁《杜若》	「~生~命へのまなざし 上村松篁」名都美術館(2010年3月20日-5月16日)
	118	上村松篁《鶴》	
33	119	三岸節子《小運河の家》	「没後10年記念 三岸節子展」大阪高島屋(2010年3月31日-4月19日、東京・日本橋高島屋(4月22日-5月10日)、岡山県立美術館(6月8日-7月4日)、名古屋・松坂屋美術館(7月7日-8月1日)
	120	三岸節子《花》	

## 当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名(作品名)	【展覧会名】会場(会期)
1	1	有島生馬《舞台衣装》	「白樺」誕生100年 白樺派の愛した美術 京都文化博物館(6月6日-7月20日)、宇都宮美術館(7月26日-9月6日)、ひろしま美術館(9月13日-10月25日)、神奈川県立近代美術館 葉山(11月3日-12月20日)
	2	岸田劉生《初夏の麦畑と石垣》	
	3	岸田劉生《村娘》	
	4	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.1 くまと妖精》	
	5	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.2 海辺》	
	6	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.3 追われるケンタウロス》	
	7	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.4 月夜》	
	8	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.5 戦うケンタウロス》	
	9	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.6 山崩れ》	
	10	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.7 ジムブリツイウスの書斎》	
	11	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.8 隠者の墓のかたわらに座すジムブリツイウス》	
	12	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.9 兵士たちに取り囲まれたジムブリツイウス》	
	13	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.10 寂しい森の中のジムブリツイウス》	
	14	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.11 死せる騎士》	
	15	マックス・クリンガー《『間奏曲』 No.12 愛・死・彼岸》	
	16	マックス・クリンガー《『手袋』 3 願望》	
	17	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《版画集『戦争の惨禍』 11 どうしても嫌だ》	

件数	点数	作家名(作品名)	「展覧会名」会場(会期)
	18	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《版画集『戦争の惨禍』26 見るにたえない》	
	19	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《版画集『戦争の惨禍』44 私は見た》	
	20	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《版画集『戦争の惨禍』76 人食い禿鷹》	
	21	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《『気まぐれ』No.1 扉絵(自画像)》	
	22	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《『気まぐれ』No.7 こうしても彼女が誰か分からない》	
	23	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《『気まぐれ』No.20 そこで彼らは羽をむしられるのだ》	
	24	ゴヤ・イルシエンテス、フランシスコ《『気まぐれ』No.63 何と勿体ぶった奴らだ!》	
	25	アルブレヒト・デューラー《『ヨハネ黙示録』 龍と闘う大天使ミカエル》	
	26	アルブレヒト・デューラー《『ヨハネ黙示録』 太陽の女と7つの顔をもつ龍》	
	27	アルブレヒト・デューラー《『ヨハネ黙示録』 天に昇るヨハネ》	
	28	オノレ・ド・ミエ《『カリカチュラーナ(ロベール・マケール)』48 代議士候補》	
	29	オノレ・ド・ミエ《『カリカチュラーナ(ロベール・マケール)』52 うまい取り決め》	
	30	オノレ・ド・ミエ《『カリカチュラーナ(ロベール・マケール)』59 自殺の悪用》	
	31	オノレ・ド・ミエ《『カリカチュラーナ(ロベール・マケール)』71 あんた、大家のくせして…》	
	32	中川一政《静物(びん・白布)》	
	33	ウィリアム・ブレイク《ロバート・ブレアー詩『墓』への挿絵 第4図:墓のなかの助言者、王、武人、母、子》	
	34	ウィリアム・ブレイク《ロバート・ブレアー詩『墓』への挿絵 第11図:死の扉》	
	35	ウィリアム・ブレイク《ヴァージル『田園詩』のための挿絵 第2図:シノットはコリネットを誹める》	
	36	ウィリアム・ブレイク《ヴァージル『田園詩』のための挿絵 第20図:くびきを外した若雌牛、もうと鳴いている》	
	37	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第8頁》	
	38	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第13頁》	
	39	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第24頁》	
	40	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第25頁》	
	41	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第40頁》	
	42	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第46頁》	
	43	ウィリアム・ブレイク《エドワード・ヤング詩『夜想』第63頁》	
	44	ウィリアム・ブレイク《『ヨブ記』第12図 エリフの弁論》	
	45	ウィリアム・ブレイク《『ヨブ記』第16図 サタンの墜落》	
	46	エドヴァルト・ムンク《二人の人物-孤独な人たち》	
	47	萬鉄五郎《裸婦》	
	48	オディロン・ルドン《『ゴヤ頌』1 …夢の中で天に神秘の顔を見た》	
	49	オディロン・ルドン《『聖アントワースの誘惑』第1集 9 …いたるところで瞳が焰をはく》	
	50	寄託作品(油彩)	
	51	寄託作品(油彩)	
	52	寄託作品(油彩)	



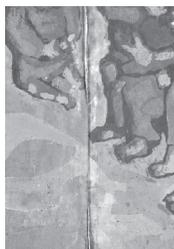
1. 〈修復前〉表 2枚の継ぎ目が変形し、亀裂など全体に損傷が目立つ



2. 〈修復前〉裏 和紙を何層も裏打ちしている様子が観察される



3. 〈修復前〉部分 厚い絵具層に亀裂や剥落が生じている



4. 〈修復前〉部分 裏面から浸みた糊の成分が白く浮き出し残留している



5. 〈修復後〉表 変形修正され画面は見やすくなった



6. 〈修復後〉裏 補強に下図が使用されている

作家名：小野忠重

作品名：蘚苔

木版、紙

制作年：1938年頃

寸法(mm)：633×990

### 修復前の所見

本作品は左右2枚の支持体を中央で継ぎ、継ぎ部分を裏面から、本図の下書きの薄い和紙を使用して補強している。中央縦の継ぎ目の接着箇所は部分的にはずれ、折れが生じている(写真1)。また左右それぞれの和紙は、小判の和紙を何層か裏打ちをして丈夫な和紙としているのが裏面に観察される(写真2)。上辺と左右辺に計9個のマット装用の和紙ヒンジが接着されている。

絵具層は非常に厚く、支持体の変形から生じた絵具層の亀裂や層間剥離、剥落が多数観察される(写真3)。亀裂、剥落箇所の周辺は、浮き上がりが生じている箇所もあり固着が悪い。水性の厚い絵具層は脆弱である。中央の継ぎ目部分周辺には、裏面に施した補強和紙接着に使用した水性糊の成分が絵具層に滲みて残留し、白い粉を吹いたよう見える(写真4)。

### 施工処置

1. 絵具層の亀裂や剥落箇所の浮き上がりをエタノールに溶解させたセルロース系接着剤(KLUCEL G)を用いて接着した。
2. 裏面の旧ヒンジを除去した。
3. 画面中央の継ぎ目部分の変形を修正し、外れている箇所を接着し直した(写真5)。(KLUCEL G エタノール溶液)
4. 裏面に接着された補強和紙の変形を修正し、外れている箇所を接着し直した(写真6)。(KLUCEL G エタノール溶液)
5. 画面の汚れを刷毛と筆で除去した。
6. 中性紙の台紙に和紙のヒンジを用いて固定した。(KLUCEL G と正麩糊の混合)

### 修復後の所見

支持体の変形修正と接着不良箇所の接着強化により、画面全体の張りが出て鑑賞しやすくなった。今後の取り扱いで支持体の変形やそれに伴う損傷が生じないように、中性紙の台紙に固定し保存することにした。マット装に際しても、作品に直接触れることなく、台紙をしっかりとマットに固定することができる。

裏面の継ぎ目補強に使用された下図は、作品の制作過程や作者の手作業を感じさせるものであり、また、作者自身により題名も記されていて貴重な資料である。

作家名：不詳

作品名：鬼の念仏(大津絵)

墨、膠絵具

制作年：不詳

寸法(mm)：〈修復前〉本紙：514×239 表具装：1,152×371

〈修復後〉本紙：517×237 表具装：1,202×373

### 1. 作品の組成と状態

本作品は掛幅装で、一文字の銀欄以外は白茶具引き紙が用いられ、各付け廻し部に糊離れしている。本紙は、経年による汚損及び破損・欠損があり、表装特有の横折れが多数生じている。

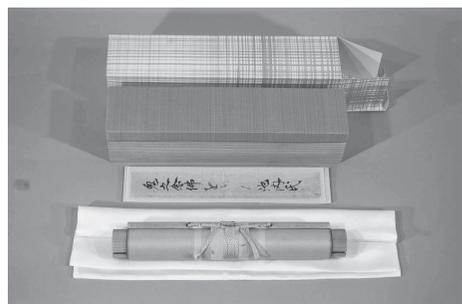
### 2. 修復処置の目的

本紙の汚損を除去し、破損部の修正、欠損部への補紙、折れ部分に折れ伏せを入れて補強し、本紙を安定保存し得るよう改装を含め適切な処置を施す。

### 3. 修復処置及び所見

大津と山科を結ぶ東海道筋の町々で、安価な土産絵として売られていた「大津絵」は、現代では民芸の美の認識が深まり、美術作品として蒐集されている。本作品は、改装及び本紙修理によって民芸の美を正しく後世に伝えることを念頭に修復した。処置は以下のとおりである。

経年により墨や膠絵具が膠ぎれをしているので、彩色部に膠水をエアーガンでごく微細に噴霧して絵具層の定着を数回おこなった後、吸い取り紙に汚れを移す方法で汚損を除去した。本紙肌上げ後破損部を修正し、欠損部に補紙をして新規に肌裏打ちをした。その後、透過光観察により、折れが将来生ずるであろう部分に折れ伏せを入れた。表装の取り合わせは、一文字に茶地唐草花紋印金裂、中緑に焦茶大倉揉み紙、上下に白茶菊揉み紙、沈めに黄土雲母引き紙、竹紙押風帯、軸首に黒漆艶消面取りとした。なお、桐材印籠箱及び太巻添軸を新調し、作品を収めた。



7. 〈修復後〉保管仕様：桐材印籠箱および太巻添軸



1. 〈修復前〉表



2. 〈修復前〉裏 側光線写真



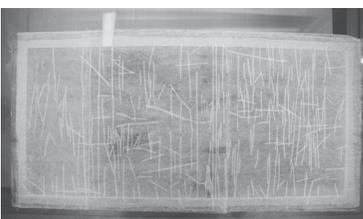
3. 〈修復後〉表



4. 〈修復後〉裏



5. 〈修復中〉肌上げ途中



6. 〈修復中〉折れ伏せ後

作家名	作品名	寸法(mm)	制作年	種別	外部委託 *
森堯茂	聚存 1	590×600×h.1,865	1957	彫刻	藤原徹
不詳	鬼の念仏(大津絵)	1,202×373	不詳	日本画	山中絵画修復工房
不詳	鬼の念仏(大津絵)	1,261×367	不詳	日本画	山中絵画修復工房
狩野芳崖	松下牧童の図	2,606×1,001	不詳	日本画	瑤春堂
矢嶋美枝子	はちうえ	909×728	1957	油彩画	(有)修復研究所21
勝呂忠	ひろがり(B)	1,392×993	1962	油彩画	(有)修復研究所21
勝呂忠	地中海にて	1,303×1,620	1981	油彩画	(有)修復研究所21
佐野繁次郎	巨大な子	540×391	1960	素描(コラージュ)	斎藤敦
山下菊二	弾圧する権力	500×645	1967	版画	斎藤敦
オノレ・ドーミエ	水浴する女たち	241×316	不詳	版画	増田久美
オノレ・ドーミエ	議会の人相学 4	350×229	不詳	版画	増田久美
オノレ・ドーミエ	議会の人相学 24	361×247	不詳	版画	増田久美
チャールズ・ワーグマン	雲	138×192	1876	素描	増田久美
土方久功	細い顔	200×200×h.345	不詳	彫刻	
堀進二	壺を抱く女	795×600×h.785	1925	彫刻	
田中阿喜良	ヴァイオリン弾き	970×1,300	1965	油彩画	
C.Ishihara	樹木のある風景	180×259	1915	油彩画	
里見勝蔵	女	652×910	不詳	油彩画	
中川一政	静物(びん、白布)	235×328	1921	油彩画	
高橋由一	江の島図	472×747	1876-77	油彩画	
宮田重雄	横浜風景	440×520	1923	油彩画	
オーギュスト・ロダン	ウゴリーノ	321×247	不詳	素描	
関合正明	『青い雲』挿絵原画(50点)	約270×190	1969-70	素描	
小野忠重	狐市街	641×992	1938	版画	
小野忠重	工場区の人々	497×607	1933	版画	
小野忠重	蘚苔	633×990	1938	版画	
小野忠重	街の子(街角)	495×705	1937	版画	

## 調査研究活動

### 研究・調査報告

#### 玉村方久斗のグラフィック的表現の意味

橋秀文

2006年に神奈川県立近代美術館と京都国立近代美術館(担当:山野英嗣、小倉実子)は共催で玉村方久斗展を開催した。その展覧会では、当時の見出しうる限りの玉村方久斗作品を展示して、大正、昭和の日本画の変革者の画業を見渡すことができた。ただ、展覧会開催から4年が経つうちに、当初から疑問に思っていた事柄などが少しずつ解明し、さらなる作品の発見があり、玉村方久斗研究が、進展していることも確かである。ここでは、そうした事柄の1、2件を報告するとともに、玉村方久斗の革新的な日本画の特徴の一つにグラフィック的な表現があることに改めて焦点を当てて論じてみたい。

近代日本画の流れのなかで、玉村方久斗の日本画は、日本美術院から脱退したということもあって、正統派から外れたものとして位置づけられてきた。玉村方久斗の日本画の特徴は、南画風の表現から前衛性の表現、もはや日本画の域にとどまる必要がないというところまで達してしまった画家の表現というところにある<sup>[註1]</sup>。しかし、全く日本画家をやめてしまったというわけではなく、戦後亡くなるまで日本画の顔料を使った作品を制作している。

玉村方久斗を研究することは、日本の近代の行方を調べていくうえで、重要なケース・スタディになると思われる。日本画を革新していく画家として解釈することに反論はないであろう。ただ、日本画が変革されていくうえで、どれほど西洋画からの影響を受けているかが、まだ十分に確認されていないのが実状だろう<sup>[註2]</sup>。

今回、2006年の展覧会以後に見出された作品を調査する機会

を得たので、その検証結果を報告したい。最初の作品は、《能因法師》<sup>[註3]</sup>である。タイトルだけでなく、1919(大正8)年、第5回院展試作展に出品された同名の作品を思い出すが、作風から察するに数年後



fig. 1 玉村方久斗 能因法師 1926-27年ころ 紙本着色 56.2×45.3cm 個人蔵

1. 玉村方久斗の芸術の要を得た特色については、菊屋吉生「玉村方久斗の気質とその表現」『視る』(2008年1-2月号・434号)2-6頁参照。
2. 玉村方久斗の海外の美術との接触に関する研究については、五十殿利治氏の「モダニズムとメカニズム(承前)―玉村善之助とその周辺―」『芸叢』第17号(2001年)などを参考されたい。

の昭和初期の制作と考えられる。ちなみに第5回院展試作展に出品された《能因法師》は、萬朝報の記事によると、当時発表された岡本綺堂の『脚本七部集』によったといわれている<sup>[註3]</sup>。同展出品作の絵柄が分からないが、この《能因法師》にしても、同様の書籍から着想を得たものと思われる。絵柄自体は、野原に座る能因法師が描かれている実に自然な肖像画となっている。草叢の繊細な線描による表現やポスターで使用される蛍光色の様な色彩の多用は、1923年の大作で一色活版社長吉田信賢旧蔵の《雨月物語》でも顕著なものであった。因みに、当時、吉田信賢は玉村方久斗と彫刻家橋本平八のパトロンとして知られていた。そしてこの《雨月物語》のような因襲的な日本画と異なった表現と1921-2年ころに刊行された『ポスター』内に見られる西洋ポスターからの刺激のようなものを当時の玉村方久斗の作品に見いだせるのではないだろうか<sup>[註4]</sup>。玉村方久斗は、当時の日本画から脱却し、新しい日本画を生み出す手立てとして、多くの洋画家や日本画家らと同様に、西洋の美術から貪欲に新しい表現を学びとろうとした。その手立ての一つに西洋の前衛的なポスター表現に目を向けたものと思われる。玉村方久斗が実質的に編集した1921年の雑誌『高原』、続いて1922年の雑誌『エポック』の挿図に西洋の美術家の作品を選ぶなど、彼の西洋美術への関心が高かったことを示している。

もう一点の新しく見出された作品は、三重県立美術館と世田谷美術館で行った「橋本平八と北園克衛」展(2010年8月~12月)に出品された玉村方久斗の《無題》<sup>[註5]</sup>とされた作品で、おそらく1925(大正14)年5月20日から24日までに開催された第1回三科会員作

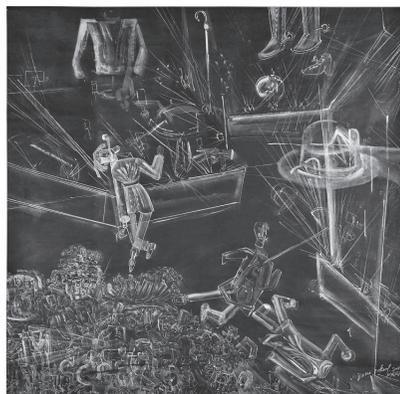


fig. 2 玉村方久斗 衣裳(コスチューム)(推定) 1925年 紙に黒色の地塗り、金銀泥 75.0×75.5cm 個人蔵

3. 『萬朝報』(大正8年2月3日)参照。同記事は、『日本美術院百年史』第四卷(1994年)1030頁に再録。
4. 2006年の玉村方久斗展図録年譜の1922年の項で、「5月、『独逸ポスター集』が高原会より出版され」と掲載されているが、これはタイトルと刊行年が少々混乱したまま記載されている。おそらく、関井光男「文献渉猟22 玉村方久斗と日本のモダニズム運動II-美術文芸誌『高原』と『エポック』-」『国文学 解釈と教材の研究』(1989年12月・第4巻第13号)で紹介されたタイトルと刊行年が混乱を生じ、その後、そのまま継承されてきたものと思われる。正式のタイトルは、『ポスター 上下』である。上巻は、奥付を見ると1921年10月25日に刊行され、下巻は裏表に大正10(1921)年11月と記載され、奥付には12月30日と記されている。ともに高原会から刊行された。ただ、ここで混乱を生じさせた一因として、別冊『ポスターのきじ』の存在が挙げられる。この別冊には、玉村方久斗の「日本のポスター界」という論文が掲載されている。そして、この別冊の表紙には高原会1921年と記載されているのだが、この別冊の序言の最後に、大正11(1922)年4月と記されているからである。この三分冊の『ポスター』の刊行年は、上巻、下巻の1921年から別冊の1922年にかけてと考えるのが正しい。

品展に出品された《衣裳〈コス  
ティウム〉》であると思われる。画  
面右下には玉村善之助が当時、  
署名に使っていたZenoskey<sup>〔註5〕</sup>  
が見られ、さらにはっきりとは  
判読できないが、中に、PRRR  
と読める部分がある<sup>〔図3〕</sup>ことか  
ら、玉村方久斗が創刊した雑  
誌『ゲエ・ギムギガム・ブルルル  
ギムゲム(GE・GJMGJGAM・  
PRRR・GJMGEM)』の名前を



fig. 3 衣裳(コスティウム)(推定)  
署名・部分

想起させ、1925年1月1日、2号から北園克衛が編集人となったこ  
とを考え合わせれば、この作品はまさに、1925年の第1回三科会  
員作品展に合わせて制作されたものと考えるのが自然のような気  
がする。なお、この作品は北園克衛の実兄橋本平八旧蔵のもの  
であった。

この作品が、第1回三科会員作品展出品作ならば、現存してい  
る同展の出品作品としては、唯一のものということになる。立体  
造形の作品や油彩画のような作品も出品していたことを考えると、  
この軸装の日本画が、奇跡的に辛くも破損することなく今まで残  
っていたことには、軸装が保存上ほかの形態の作品よりも優れて  
いるとみることが出来るかも知れない。写真しか残っていない作  
品は、みな、立体造形や油彩画など形態的な点から、軸装ほど  
にはうまく保存ができなかったとも考えられるのだ。この《衣裳〈コ  
スティウム〉》の表現は、もちろん、伝統的な日本画からほど遠い。  
とてもグラフィックな感覚で描き上げられており、西欧のポスター  
などの影響などが確実にみられる。マヌカンや帽子やステッキが  
この絵の主役になっているが、それらのイメージは、イタリアの  
形而上学的絵画の画家カルロ・カッラやジョルジョ・デ・キリコな  
どが好んで描いたマヌカンなどを思い出させる。また、全体的に、  
ショー・ウィンドウが立ち並ぶ街路を俯瞰したような空間表現は、

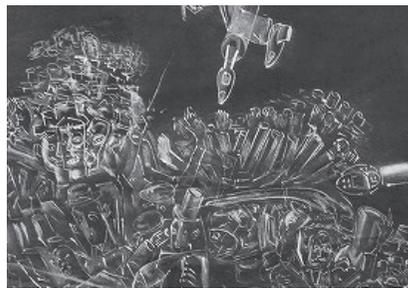


fig. 4 衣裳(コスティウム)(推定) 左下群衆・部分

5. 日本画を制作するという意識ではなく、新興美術運動のなかでの前衛的な  
作品を制作するときには、玉村方久斗ではなく、玉村善之助の名前を使っ  
たと加藤弘子氏は指摘している。加藤弘子氏の「大正期の玉村方久斗(2)」  
『東京都現代美術館紀要第4号(1998年度)』(1999年)5頁を参照。この作  
品を玉村方久斗が日本画を制作すると意識して制作したのか、それとも前  
衛的な作品として制作したのか、今後、議論がなされるところである。ま  
た、玉村方久斗は、『劇場の三科』ポスターのサイン同様に、本作品でロ  
シア人の名前に似せた Zenoskey というサインを用いている。なお、2007年  
の玉村方久斗展などの出品作で倉敷市立美術館所蔵の『劇場の三科』ポス  
ターの原画(cat.no.25)と言われてきたものは、原画ではなく、印刷物とし  
てのポスターであった。

ロシア・アヴンギャルドの画家たちが、演劇と密接な関係を結び、  
舞台装置を制作して生み出したものと似通うものがある。また、  
ショー・ウィンドウのガラスの透明な質感、反射を黒地に金銀泥  
で描きだそうとしているところなど、当時の日本画には見受けられ  
ない斬新な表現といえるであろう。さらに、左下の群衆描写には、  
ジョージ・グロスの人物描写と類似したデッサンの表現がみ  
られる<sup>〔図4、註6〕</sup>。ただ、結果は、従来の日本画とまったく異なるイ  
メージとなっているが、日本画の顔料を使っているというだけでな  
く、和紙に黒い顔料を塗ったと思われる、そうした暗色の下地に  
金銀泥で描きだしたところは、写経などに見られる古典的表現を  
彷彿とさせ、さらに、群衆の腕の重なり具合は、千手観音の腕の  
描写を思わせる。そのうえ、イタリア未来派の画家ウンベルト・ボ  
ッチョーニの動きやスピード感を描写しようとした対象物の連続的  
表現をも連想させる。ここで、伝統と前衛の融合を玉村方久斗は  
果たそうとしたのである。さらに、技巧派の玉村方久斗だけに細  
部の豊かな表現に固執することに注目が行き、決して抽象表現に  
走ることがなかったことを確認しておく必要がある。いずれにせ  
よ、この作品では、玉村方久斗が日本画による変革者であるとし  
て面目躍如としたものを見事に示したと思われる。

最後に、この作品は、玉村方久斗展では発見出来なかったもの  
の、玉村方久斗と橋本平八のパトロンであった一色活版社長吉田  
信賢の縁から、今回の橋本平八と北園克衛展で突如出現したとい  
っていい。二つの展覧会は、見えない糸で結ばれているのであ  
ろう。

6. 西洋画の影響に関わるもののひとつであるが、1924年にジョージ・グロス  
の版画集《エッケ・ホモ》が、築地小劇場休憩室に展示されていたことを水  
沢勉氏から教えられた。『20世紀最大の諷刺画家 ジョージ・グロス ベル  
リンーニューヨーク展覧会』図録(2000年・神奈川県立近代美術館、伊  
丹市立美術館、栃木県立美術館)218頁参照。玉村方久斗もこの版画を見  
ていた可能性がある。さらに、玉村方久斗のジョージ・グロスからの影響  
は、1931年の《港町寸景》などにも見受けられる。この作品以下、同寸の作  
品が、京都国立近代美術館に2点(《休日》、《港町寸景》)、秋田県立近代美  
術館に5点(《玄関にて》、《庭先光景》、《プラットホーム》、《書斎》、《立ち話》)  
あり、おそらく1931年の第2回ホクト社展出品作(《生活断片》)であろうと秋田  
県立近代美術館の山本丈志氏によって推測されたが、2006年の玉村方久  
斗展開催中に、加藤弘子氏が、第2回ホクト社展覧会出品目録を入手し、  
これらが《生活断片》であることの確信を得ている。この作品は、実際には、  
15点のシリーズであり、同様の作品があと8点存在することが判明した。  
詳細については、加藤弘子氏の研究報告が待たれる。

橋本平八と北園克衛展に出品された玉村方久斗の作品に関して、図版掲載許  
可をいただきました所蔵家の方、さらにその労を取りなしていただきました三重県  
立美術館の毛利伊知郎氏、並びに世田谷美術館の野田高彦氏に感謝申し上げ  
ます。

チェコスロヴァキアのアール・デコ書籍装丁  
——プラハ装飾芸術美術館所蔵作品の調査を経て

榎山昌夫

チェコスロヴァキアの書籍装丁は、1925年にパリで開催された現代装飾・産業芸術国際博覧会(アール・デコ展)に数多く出品され、その中で、ブラチスラフ・フゴ・ブルネルとヤロスラフ・ベンダが金メダルを受賞し、国際的な評価を得たことでひとつの頂点を迎えた。この頃、自国の装丁についてヨゼフ・チャベックは「ある人たちは、現代の本が装飾的な繊細さとリズムの面で、昔の高貴な本とできるだけ似ているようにと望み、別の人たちは、このうえなしの勝手気まままで表紙を満たしている」<sup>[註1]</sup>と述べているが、ここで対比されているのが、アール・デコとアヴァンギャルドの装丁である。当時のチェコスロヴァキアの装丁は、これらのふたつにチャベック自身やヴァーツラフ・シュペーラーらの絵画的な表現主義の装丁を加えて、大きく3つに分けられる。

アール・デコの装丁は、カレル・タイゲを中心とするアヴァンギャルドの芸術家たちから「工芸主義」、「芸術の手工芸」と揶揄される前時代的存在であった<sup>[註2]</sup>。チャベックが安価な手段としてのリノカットを利用し、タイゲが写真やタイポグラフィを重視したように、表現主義とアヴァンギャルドの芸術家たちは機械文明を受け入れ、近代の工業技術や量産を前提にした装丁の新しい表現を求めた——2002年に当館が開催した「チャベック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド」は、まさにチェコスロヴァキアの装丁におけるそれらのモダニズムを捉えた展覧会であった。

2007年1月に、筆者は上記展覧会の追跡調査として、北海道大学スラブ研究センター所蔵のチェコ文学コレクション(北大コレクション)全883点の装丁を調べた<sup>[註3]</sup>。その中には、アール・デコ展で受賞するブルネルが装丁した書籍が21冊あり、イジー・マヘン『小さな炎』(1907年)のアール・ヌーヴォーの装丁から、キュビズムの影響を経て、直線や半円を組み合わせた幾何学的なアール・デコの装丁へと展開を追うことができる。

ブルネルは、プラハ美術アカデミーで学んだ後、1906年にミュンヘン美術アカデミーに留学し、そこで世紀末芸術の影響を強く受けた。帰国後の1908年には、ヨゼフ・ゴチャール、パヴェル・ヤナーク、フランチšek・キセラ、ベンダといった建築家や室内装飾家や装丁家らと共にウィーン工房に倣ってさまざまな職能の統合を目指すアルチュル(共同組合)を結成した。1911年には一時的にキュビズムの影響を受け、美術アカデミーを母体とするマーネス造形芸術家連盟(マーネス)から離脱して、チャベックらと造形作家グループを結成するが、翌年にはマーネスに復帰している。

ところで、1913年にマーネスの機関誌『ヴォルネー・スムニェリ(自

由潮流)』にブルネルが発表した「チェコの書籍印刷の危機」には次のように記されている。「我々の本は、作家の思想や言葉そのままに、単純かつ直接的であるべきだ。本の製作は、微妙で表面的な手技や、ある詩人の余白に広がる寄生的で様式化された、つまらないものになってはならない。本は贅沢であってもならない。多くの個人出版は、稀少な印刷物を創り出そうという希求によって突き動かされる。一方、我々の小さな国家が必要としているのは、むしろ文学上、デザイン上の質の高さにおいて稀であり、かつ合理的な値段の書籍である。」<sup>[註4]</sup>これは、ウィーン工房の装飾性を批判した建築家アドルフ・ロースが、『装飾と罪悪』(1908年)で表明した「装飾は犯罪である」という思想にも通底する。

けれども、ブルネルの装丁はその後、直線や半円を組み合わせた幾何学的な装飾性を強め、前述のとおり、アール・デコ展で金メダルを得ることになる。それはチャベックが1924年に述べた「私は愛蔵版の本に、模範的に精選されて整えられた印刷物に、喜びを感じたことはなかった。……今日でもまだ、過度に繊細なやり方で取捨選択を加え、高貴な姿に装飾された書物を手に取るときには、これは私のための代物ではない、というあの捨てがたい感じを持つ」<sup>[註5]</sup>ものであった。そして、この言葉は、北大コレクションの中では、オタカル・フィッセル『アンゲルス・シレシウス』(1922年)にもっともよく当てはまる。奥付にブルネル装丁と記されたこの1冊は、表紙が印刷された紙の並装ではなく、繊細な銀箔押しが施された豪華本である<sup>[註6]</sup>。



fig.1 オタカル・フィッセル『アンゲルス・シレシウス』(1922)、北大コレクション

1918年にオーストリア・ハンガリー帝国から独立したチェコスロヴァキア共和国は、1925年のアール・デコ展に5つの展示会場を設け、新国家の存在を国際的に印象付けようとした。それらは、①セヌ河岸に建てられたチェコスロヴァキア共和国館と、②グラン・パレ1階ギャラリー、③教育をテーマとするグラン・パレ2階ギャラリー、④近代住宅をテーマとする廃兵院広場のギャラリー、⑤菓子と豚肉製品館の中のブースである<sup>[註6]</sup>。この中で、1919年に装飾芸術学校の教授となったブルネルのアトリエからヴァーツラフ・フィアラ(1919年同校卒)、ハナ・ドスターロヴァー(1924

1. ヨゼフ・チャベック(飯島周訳)「本の表紙の作り方」(1924年)『チャベック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド』展図録、I.D.F.、2002年、220ページ。

2. Iva Janáková, "Book Design," in The Municipal House ed., *Czech Art Deco 1918-1938*, Prague: The Municipal House, 1998, p. 188.

3. 榎山昌夫「北海道大学スラブ研究センター所蔵のチェコ文学コレクションの装丁作品について——神奈川県立近代美術館における展覧会「チャベック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド」後の追跡調査研究——」『神奈川県博物館協会会報』第79号、2007年12月、73-81ページ。

4. Vratislav H. Brunner, "Krise českého knihtisku," *Volné směry*, v. 17 (1913), p. 195.

5. ヨゼフ・チャベック「本の表紙の作り方」、220ページ。

6. *Catalogue officiel de la Section tchécoslovaque, Exposition internationale des arts décoratifs et industriels modernes, Paris, 1925.*

年卒)、ルドヴィカ・スムルチコヴァー(1927年卒)、アルトゥル・プレヴァ(1927年卒)らが、装丁作品を共和国館①2階のギャラリーとグラン・パレ2階のギャラリー③に出品し、ブルネルが彼らの指導者として受賞したのである。そして、これらの出品作品こそ、伝統的な箔や型押しを技術を取り込んだ、直線や半円の組合せというアール・デコの豪華本とその見本であり、現在、プラハ装飾美術館に収蔵されている。筆者はそれらを、同館のルチエ・ヴルチコヴァー学芸員の協力の下、平成20(2008)年度に財団法人ポーラ美術振興財団(POLA ART FOUNDATION)の助成を受けて、2009年3月に調査した。

調査を申請したのは、アール・デコ展を中心とするブルネル関係の資料であり、47冊の書籍、1点の秩、13点のブルネルによるカット原画を実見することができた。47冊中、4冊はマヘン『小さな炎』を含む1905年から1907年にかけて刊行されたブルネルによるアール・ヌーヴォー装丁の本、1冊は1915年刊行のキュビスムの影響を受けたキセラによる装丁の本、残る42冊が、アール・デコの豪華本と見本である。これら42冊の表紙は、前述5冊の印刷された紙の並装とは異なり、すべて箔押しや型押しを用いた手仕事の革装である。その

内36冊には、ブルネルと学生の名前が記されたアール・デコ展の出品ラベルが残っていた〔fig. 2、註7〕。36冊中、ドスターロヴァーが12冊、スムルチコヴァーが9冊、プレヴァとフィアラが3冊ずつ、オールドジフ・ライドルとM. レイロヴァーが2冊ずつ、他5名が各1冊である。それ以外の3冊中、1冊はスムルチコヴァーによる1924年出版の書籍を装丁したもの、プレヴァともうひとりによる2冊は後述する1922年出版のアントニン・ソヴァの著作集を装丁したものであることから、これらもアール・デコ展出品作品である可能性が高い。残り3冊は、別のラベルから1927年とブルネルが亡くなる1928年の装丁と知れる。

また、これら42冊中、35冊はアヴェンチュムから刊行されたチェコの詩人ソヴァの著作集であり、第1巻『愛と人生の抒情詩』(1922年)が6冊、第2巻『荒れ狂う悲しみ』(1922年)が5冊、第3巻『砕けし魂』(1922年)が4冊、第4巻『寛容な心の詩』(1922年)が5冊、第5巻『たわむれの恋、真実の愛と裏切りについて』(1923年)が3冊、第6巻『収穫』(1923年)が3冊、同(1927年)が1冊、第7巻『トーマ・ボヤル』(1923年)と第8巻『希望と苦痛』(1924年)が4冊ず

7. ラベルには、前掲の公式カタログの扉と同じ女性像が印刷されている。



fig. 3 アントニン・ソヴァ『たわむれの恋、真実の愛と裏切りについて』(1923)、アルトゥル・プレヴァ装丁(アール・デコ展出品ラベルによる)、プラハ装飾美術館



fig. 4 アントニン・ソヴァ『希望と苦痛』(1924)、ハナ・ドスターロヴァー装丁(アール・デコ展出品ラベルによる)、プラハ装飾美術館

つである。これらソヴァ著作集の刊行時の装丁はブルネルによる。つまり、ブルネルは自分が装丁した並装本を、豪華本を作るために提供したと考えられる。つまり、ドスターロヴァーらは、ブルネルがデザインした印刷された紙の表紙などを外して、革装の表紙などに改装したのである〔figs. 3, 4〕。同様に、ドゥルジュストヴォ・プジーチェル・ステュディアからブルネルの装丁で刊行された『キリストの生涯』(1923年)2冊と『花束 カレル・ヤロミール・エルベンについての国民的評価』(1924年)1冊も同様に改装されている。この他、アール・デコ展出品ラベルがある36冊の内、3冊は中身に白紙を用いた豪華本の装丁見本である。

ところで、当時のチェコスロヴァキアでは、これらのアール・デコの豪華本以外にも、チャベックやアヴァンギャルドの芸術家らが装丁した安価な並装本を、所蔵者が愛蔵本とするために、しばしばクロス装に改装することがあった。その多くの場合、元の表紙は巻末に綴じ込まれた。さらに、出版社が初めからこの特殊な体裁のクロス装で出版することもあった。しかし、今回の調査対象となったアール・デコの豪華本は、それらとはまったく次元を異にする、1冊1冊が完成度の高い革装である。そして、3冊の白紙による装丁見本から明らかなように、それらは本の内容とは無関係に、あくまでも外観の洗練を職人的な手仕事によって追求した、文字通りのアール・デコ(装飾芸術)であった。

今回の調査から、前述の北大コレクションの『アンゲルス・シレシウス』もまた、ブルネルが装丁した並装本を改装した豪華本である可能性が高い。このことは、今後、チェコスロバヴァキアのアール・デコ装丁について論じる際には、プラハ装飾美術館所蔵の豪華本をひとつの基準として考察する必要があることを示している。

## 調査研究・執筆等の発表

### 1) 当館開催展覧会に伴う調査研究・発表

展覧会図録への発表:11点40件(詳細は各展覧会活動ページの各展図録内容を参照)

外部の媒体への発表:6媒体11件

### 2) 所蔵作品や館内の活動に関わる調査研究・発表

当館の発行物への発表:3媒体(年報、「たいせつな風景、「蓮池じゃぼん」夏の美術館ドキュメント)20件

外部の媒体への発表:6媒体11件10媒体23件

### 3) その他の調査研究・発表

外部の媒体への発表:15媒体15件

## 外部資金の活用・共同研究

### 1) 外部資金を活用した展覧会

協賛金助成(株式会社資生堂)「内藤礼」展

助成(財団法人吉野石膏美術振興財団)「建築家 坂倉準三展」

### 2) 外部との共同研究

来館者の鑑賞体験を活用した文化財情報の発信(国立情報学研究所共同研究)「美術館ははくらの宝箱」展

## 講師派遣・外部委員等就任

### 1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣)

実施日	内容	対象	会場	参加者数	主催	実施者
平成21年5月4日	「追悼 片岡球子展」記念講演会 「噴火する個性—片岡球子の人と絵画」	一般	岡山県立美術館	60	岡山県立美術館	山梨俊夫
平成21年6月3日	美術スクールセミナー講師	中学2年生	北鎌倉女子学園中学校	140	北鎌倉女子学園中学校	橋秀文
平成21年7月25日	「『白樺』誕生100年 白樺派の愛した美術」講演会 「『白樺』の時代と美術」講師	一般	宇都宮美術館	50	宇都宮美術館	山梨俊夫
平成21年8月1日	無声時代ソビエト映画ポスター展記念講演会 「ロシア・アバンギャルドの映画ポスターとその周辺」講師	一般	京都国立近代美術館	5	京都国立近代美術館	榎山昌夫
平成21年8月5日	小田原市・足柄下郡合同教育研究会 「ことばによる表現やコミュニケーション能力を伸ばす授業をめざして」講師	小田原市、足柄下郡 内小・中学校教員	神奈川県立近代美術館 鎌倉	20	小田原市教育研究会 足柄下郡教育会	稲庭彩和子
平成21年8月6日	「教員研修講座」講師	葉山町・逗子市立小・ 中学校教員	神奈川県立近代美術館 鎌倉	20	葉山町教育研究所	稲庭彩和子 奥野美香
平成21年8月18日	「ESD教材総展」講師 ワークショップ「Museum Box 宝箱」	教員、一般、 NGOスタッフ	あーすぶらざ	40	(財)かながわ国際交流財団	稲庭彩和子 奥野美香
平成21年8月26日	教科等専門研修事業 美術館との連携による教育活動研修講座	小・中・高・特別支援 学校教員	神奈川県立近代美術館 鎌倉・鎌倉別館	30	神奈川県立総合教育センター	稲庭彩和子
平成21年9月9日	鎌倉市教育研究会図工部会講師	鎌倉市内小学校教員	神奈川県立近代美術館 葉山	30	鎌倉市教育研究会	稲庭彩和子
平成21年10月19日	「神奈川県立近代美術館の保存の取り組み」講師	大学生	東京藝術大学	50	東京藝術大学保存科学研究室	伊藤由美
平成21年10月30日	「博物館実習」講師	大学生	京都工芸繊維大学	40	京都工芸繊維大学	稲庭彩和子
平成21年11月7日	常設展講座「気軽にアート・レクチャー」 「戦後の日本美術について」講師	一般	富山県立近代美術館	30	富山県立近代美術館	橋秀文
平成21年11月11日	美術講座「白樺派の愛した美術」講師	一般	調布市東部公民館	50	調布市武者小路実篤記念館 運営事業団	榎山昌夫
平成22年2月15日・ 16日	「平成21年度美術館等運営研究協議会」講師	学芸員	大阪大学中之島センター 国立国際美術館	90	文化庁文化財部	稲庭彩和子

## 2) 外部委員等就任

職員名	内 容	
	団体名	職名
山梨俊夫	広島県立美術館	広島県立美術館美術品等収集評価委員会委員
	静岡県立美術館	静岡県立美術館第三者評価委員
	愛知県美術館	愛知県美術館美術品収集委員会委員
	横浜州市民活力推進局	横浜市美術資料収集審査委員
	横浜市	横浜美術館指定管理者業務評価委員会委員
	国立美術館	独立行政法人国立美術館評価委員
	国立民族学博物館	国立民族学博物館運営会議委員
	(財)神奈川芸術文化財団	財団法人神奈川芸術文化財団評議員
	宇都宮市	宇都宮美術館美術作品等収集評価委員
	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	県民部文化課	神奈川文化賞・スポーツ賞審査委員
	県民部文化課	神奈川県美術展審査員
	鎌倉市	鎌倉市美術作品収集委員会委員
	北海道立三岸好太郎美術館	北海道立三岸好太郎美術館協議会委員
	福島県立美術館	福島県立美術館美術作品収集委員会委員
	名古屋市立美術館	名古屋市立美術館美術作品収集委員会委員
兵庫県立美術館	兵庫県立美術館運営委員会委員	
水沢勉	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員会委員
	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	福岡アジア美術館	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	鳥取県	鳥取県美術資料収集評価委員会委員
	熊本市	熊本市美術品等収集審査委員会委員
	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品収集評価委員
	群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館作品収集委員会委員
太田泰人	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員
	国立西洋美術館	美術作品購入評価員
	東京都生活文化スポーツ局	東京都写真美術館資料収集委員会委員
	学習院大学	非常勤講師
	東京大学	非常勤講師
伊藤由美	東京藝術大学	非常勤講師
橋秀文	横浜市	横浜市美術作品価格評価委員
	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
	山口蓬春記念館	山口蓬春記念館美術品評価委員
	神奈川県民共済生活共同組合	夏休みに描くクレヨン画コンクール審査員
是枝開	東京藝術大学	非常勤講師
	神奈川県社会福祉協議会	かながわシニア美術展審査員
李美那	東京藝術大学	東京藝術大学美術学部杜の会賞選考委員
	神奈川県女流美術家協会	神奈川県女流美術家協会展審査委員
穂山昌夫	茅ヶ崎市	美術品審査委員
	特定非営利活動法人チェコー日本美術文化センター	「全国公募U35・500人アーティスト小作品販売EXHIBITION」審査委員
	FFIAK 神奈川国際アニメーション映像祭実行委員会	FFIAK 神奈川国際アニメーション映像祭実行委員会参与
三本松倫代	生涯学習文化財課	文化財保護ポスター 審査委員
稲庭彩和子	(財)かながわ国際交流財団	21世紀ミュージアム・サミットの企画運営委員会助言者・パネリスト
	環境農政部廃棄物対策課	かながわゴミゼロクリーンポスターコンクール 審査員
	環境農政部緑政課	愛鳥週間用ポスターコンクール 審査員

# 運営・管理報告

## 概況

### 1) 沿革

昭和26年 11月17日 神奈川県立近代美術館として開館

昭和41年 3月31日 収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設

昭和44年 3月31日 学芸員室を増設

昭和49年 8月 1日 神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く。

昭和59年 7月28日 別館を開館

平成 3年 10月30日 本館の改修工事完了

平成13年 7月 5日 PFI事業契約の締結

平成15年 6月 1日 神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる。

平成15年 10月11日 葉山館を開館

### 2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

### 3) 施設の状況

#### ア 土地

県有	(葉山館分)	面積	15,034.8㎡
	※生涯学習文化財課管理		
	(鎌倉別館分)	面積	4,937.0㎡
借用	(鎌倉館分)	面積	4,243.1㎡
		(有償分)	1,547.2㎡
		(無償分)	2,695.8㎡

#### イ 建物

県有		面積	4,034.0㎡
		(鎌倉館分)	2,435.0㎡
		(鎌倉別館分)	1,599.0㎡

PFI事業の概要については、2007年度運営・管理報告(年報2007年度、p.63)を参照

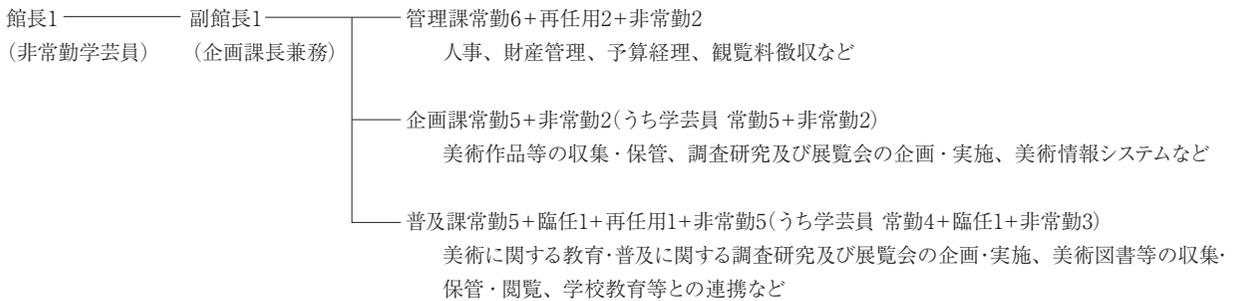
## 収入・支出の状況

収入		(千円)
科 目	金 額	内 訳
行政財産使用料	281	鎌倉館喫茶建物使用料等
使用料	49,824	観覧料収入
立替収入	1,255	レストラン他 電気・ガス・水道代
雑入	16,232	図録等販売
教育受講料収入	115	県立機関活用講座
計	67,707	

支出(人件費含まず)		(千円)
事 業 名	金 額	内 訳
維持運営費	72,143	維持管理・事業運営
美術館事業費	111,657	展覧会開催費
調査研究事業費	283	調査研究謝礼 資料購入
教育普及事業費	2,816	教育普及事業
美術作品整備事業費	7,740	美術作品の修復 美術作品の購入
特定事業費	233,519	維持管理業務(PFI業務)
県立機関活用講座開催事業費	279	講座の開催
計	428,437	

## 組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成21年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 31人 〈常勤17人(うち学芸員10人)、臨任1人(うち学芸員1人)、再任用3人、非常勤10人(うち学芸員6人)〉

施設別配置状況

葉山館	22人	〈常勤12人(うち学芸員7人)、臨任1人(うち学芸員1人)、再任用2人、非常勤7人(うち学芸員4人)〉
鎌倉館	6人	〈常勤 4人(うち学芸員3人)、非常勤2人(うち学芸員1人)〉
鎌倉別館	3人	〈常勤 1人、再任用1人、非常勤1人(うち学芸員1人)〉

職員一覧

館長 山梨俊夫

副館長 水沢 勉

管理課	課長	橋本千晴	普及課	課長	太田泰人
	副主幹	會津 勉		主任学芸員	是枝 開
	副主幹	高麗克美		主任学芸員	長門佐季
	主査	中嶋哲志		学芸員	奥野美香
	主査	鈴木千佳子		臨時学芸員	稲庭彩和子(5月1日から非常勤学芸員)
	主事	江成真実子		非常勤学芸員	山内舞子
	管理業務専門員	林 弘一		非常勤学芸員	土居由美
	管理業務専門員	大貫一郎		非常勤学芸員	丸尾尚子(6月30日まで)
	非常勤事務補助員	加藤直美		非常勤学芸員	松尾子水樹(7月1日から8月31日まで)
	非常勤事務補助員	北口正子		非常勤学芸員	橋本典子(9月1日から2010年3月31日まで)
企画課	課長(兼)	水沢 勉	[美術図書室]		
	専門研究員	伊藤由美	副主幹	遠藤裕邦	
	専門学芸員	橋 秀文	図書業務専門員	野田容子	
	主任学芸員	李 美那	非常勤司書	村上尚子	
	主任学芸員	榎山昌夫	非常勤司書	藤代知子	
	学芸員	三本松倫代			
	非常勤学芸員	朝木由香			
	非常勤学芸員	平井鉄寛			

**年報 2009年度**

発行日: 2011年2月15日

編集・発行: 神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話046-875-2800

鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 電話0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

制作: 印象社

**ANNUAL REPORT 2009**

Edited & published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2011

Produced by Insho-sha

© The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2011